

佐久市埋蔵文化財

# 年報 3

平成5年度

佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財 年報 3 平成5年度

佐久市教育委員会



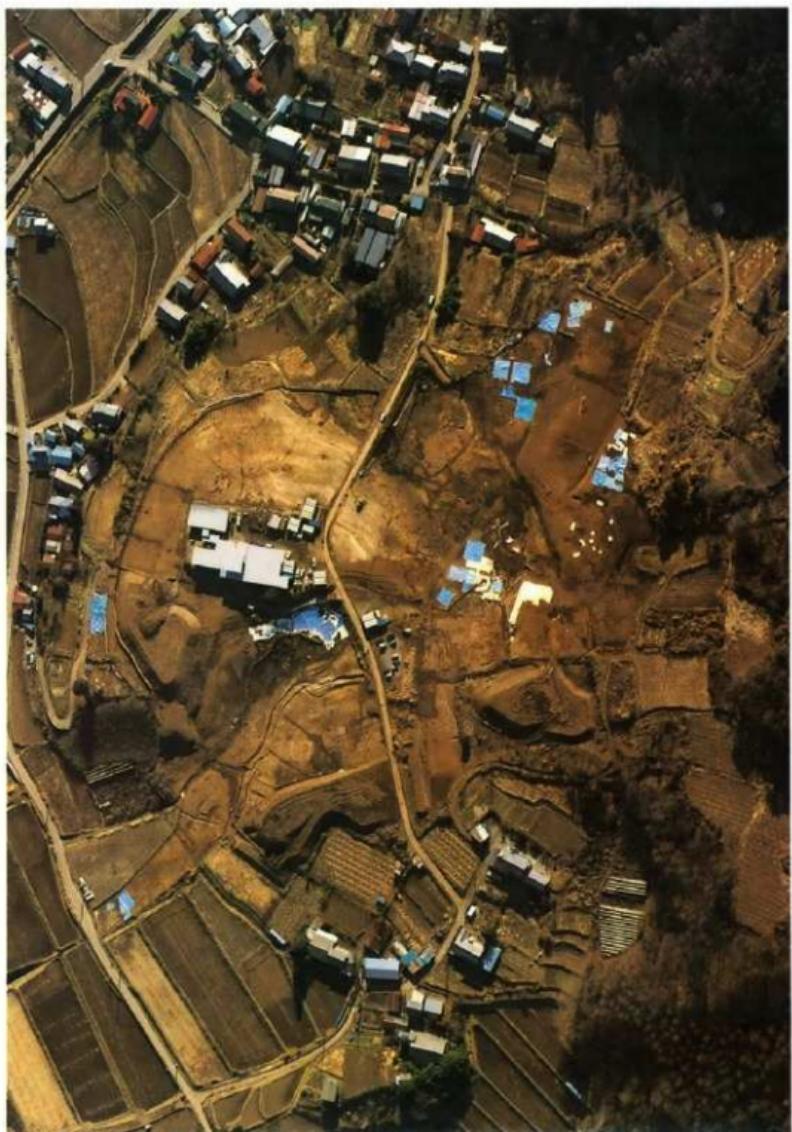
高山遺跡・南下中原遺跡II付近航空写真



奇山遺跡 出土土器



奇山遺跡 出土土器



棲名平遺跡 濟査区全景



株名平遺跡より蓼科山を望む



株名平遺跡II地区 中世館跡



平尾山南斜面 航空写真



平尾山北斜面 棚畠遺跡航空写真

# 目 次

## I 組 織

1 組 織	2
2 体 制	2

## II 事 業

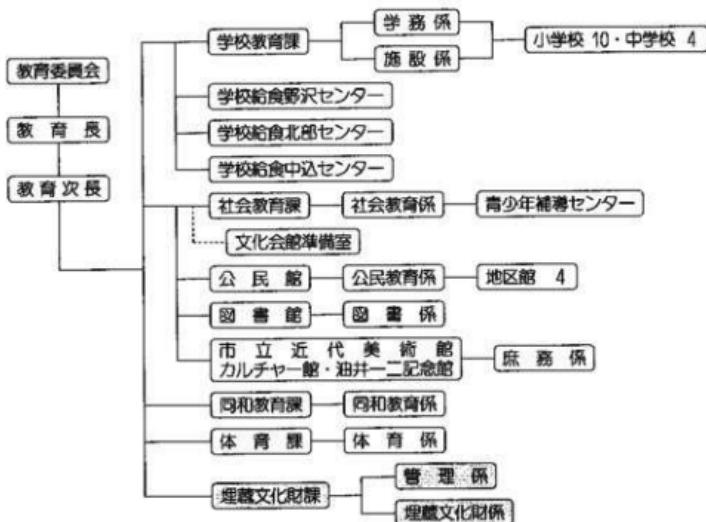
1 調査事業費	6
2 保護・保存事業	6
(1) 現状および指定保護・保存	6
(2) 記録保存	6
3 普及・公開事業	8
4 分析・鑑定	10
5 刊行図書	10

## III 調査概要

一本松古墳群第3号古墳	13	西曾根遺跡Ⅲ	40
丸山古墳群	16	榛名平遺跡・坪の内古墳	41
下伴助A遺跡	18	八尾山遺跡群	46
下伴助B遺跡	22	聖原遺跡VII・下曾根遺跡Ⅰ	48
下伴助岩跡・一本松岩跡	24	芝宮遺跡群高山遺跡	50
白山岩跡	28	長土呂遺跡群聖原遺跡VI	52
燐丘遺跡	30	芝宮遺跡群南下中原遺跡Ⅱ	54
曾根新城遺跡Ⅲ・VI	34	立石遺跡	56
上久保田向遺跡Ⅱ・VI	36	兵士山・五斗代B遺跡	58
曾根新城遺跡V	38	野馬窪遺跡	67

## I 組 織

## 1 組織



## 2 体制

(事務局) 佐久市教育委員会 埋蔵文化財課

教 育 長 大井 季夫

教 育 次 長 奥原 秀雄

課 長 上原 正秀

管 理 係 長 小林 泰子

埋蔵文化財係長 草間 芳行

埋蔵文化財係 林 幸彦、高村 博文、三石 宗一、須藤 隆司、小林 義寿、  
羽田野卓也、富沢 一明、上原 学

調査主任 佐々木宗昭、森泉かよ子  
調査副主任 堀 益子  
調査員 浅沼ノブ江、阿部 和人、荒井 利男、荒井ふみ子、飯沢つや子、五十嵐勝吉、池田 豊子、磯貝 はな、市川 愛子、市川チイ子、井出 愛子、井出つねじ、井出 梭雄、伊藤 理、伊藤 七郎、井上 行雄、今井みさ子、岩下 吉代、岩下とも子、岩下 文子、上西加代子、上野よし子、上原 幸子、江原 富子、遠藤しづか、大井 キセ、小田川 栄、小田川時江、掛川ますい、柏原 松枝、勝山 克世、金森 治代、金子みよし、川多アヤ子、木内 明美、木内 久、木内よし子、工藤しづ子、榎沢三之助、倉見 渡、神津ツネヨ、神津よしの、鷹石しげ子、小須田 サク工、小林 幸子、小林 立江、小林まさ子、小林 臨子、小林よしみ、斎藤 義男、佐藤 明子、佐藤 希望、篠崎 清一、篠原 昭子、篠原 孝子、清水佐知子、清水 六郎、白井あくに、関口 正、高梨け二三、高橋 ふみ、竹垂 祐夫、武田 千里、武田まつ子、堤 ときよ、角田すづ子、角田 時、角田トミ工、角田 良夫、東城 友子、東城 幸子、徳田 代助、伴野甚三郎、橋田 啓枝、並木ことみ、成沢 富子、萩原 宮子、羽毛田香里、橋詰 勝子、橋詰けさよ、橋詰 信子、橋詰ヨシ江、花岡美津子、花里香代子、花里きしの、花里四之助、花里三佐子、花里八重子、原 キミ工、星野 良子、細萱ミスズ、堀籠 滋子、堀込 成子、堀籠 因、堀籠みさと、真島 保子、増永佐代子、増野 深志、丸山 邽、丸山美奈子、宮川百合子、宮本 宣子、村松 とみ、茂木とよ子、桃井もとめ、森泉 鉄一、森角 友子、谷津 茂子、柳沢千賀子、柳沢ちなみ、柳沢豊志子、山浦 豊子、山崎さきの、山崎 直、山崎平八郎、横山みよ子、依田三枝子、依田 みち、和久井義雄、渡辺久美子、遠辺 倍男

II 事業

## 1 調査事業費

平成5年度埋蔵文化財調査事業費	予 算 額	362,421,000円
	決 算 額	362,205,387円
	受託事業費	247,908,000円

## 2 保護・保存事業

### (1) 現状および指定保護・保存

該当なし。

### (2) 記録保存

#### 1) 概 要

開発原因者 国・県補助	調査実施数					報告書 刊行
	実施	試振	立会	整理	計	
国 県 市 等	国・県補助			1	1	2
	長野県土地開発公社	1		1	2	1
	佐久平土地改良区			1	1	1
	佐久建設事務所		1	2	1	4
	佐久下水道組合	1			1	2
	佐久市土地開発公社	2			1	3
	佐久市開発公社		1			1
個人・民間業者	佐久市	7	9		16	
	個人・民間業者	9	16	2	4	31
	合 計	20	27	5	10	62
	原因者負担	20	1		9	30
国・県補助			5	1	32	2

## 2) 発掘調査

No.	遺跡名	所在地 面積	概要
1	一本松古墳群 第3号古墳	佐久市大字下平尾字一本松 1,000m <sup>2</sup>	復元保存
2	丸山古墳群	佐久市大字下平尾字丸山 7,000m <sup>2</sup>	古墳2基現状保存
3	下伴助A遺跡	佐久市大字下平尾字下伴助地 11,000m <sup>2</sup>	住15(純・平), 挿立1, 土器埋納土坑2, 土坑6, 堅2(中世), 古墳1
4	下伴助B遺跡	佐久市大字下平尾・上平尾 9,300m <sup>2</sup>	住11(純前～中), 土坑34(純前～中), 挿立2
5	下伴助岩跡 一本松岩跡	佐久市大字下平尾・上平尾 下伴助岩跡3,700m <sup>2</sup> , 一本松岩跡1,600m <sup>2</sup>	段曲輪, 石垣, 渾
6	白山岩跡	佐久市大字上平尾 4,200m <sup>2</sup>	段曲輪, 石垣
7	櫛塙遺跡	佐久市大字上平尾 8,800m <sup>2</sup>	住25(純～平), 堅8, 土坑101
8	曾根新城遺跡II・VI	佐久市大字長土呂字曾根新城 III-1,000m <sup>2</sup> , VI-775m <sup>2</sup>	II 住4(平), 土坑10, 渾1 VI 住3(平), 土坑3, 渾9
9	枇杷坂遺跡群 上久保田廻跡II・VI	佐久市大字岩村田字枇杷坂 II-250m <sup>2</sup> , VI-440m <sup>2</sup>	II 土坑墓3(中世), 浸1, 河川跡1 VI 河川跡1
10	曾根新城遺跡V	佐久市大字長土呂字曾根新城 3,300m <sup>2</sup>	佐久市埋蔵文化財調査報告書第28集「曾根新堀V」 住2(平), 土坑12, 渾2
11	栗毛坂遺跡群 西曾根遺跡III	佐久市大字岩村田字西曾根67 300m <sup>2</sup>	掘立8, 土坑1, 小河川跡1
12	榛名平遺跡 岸の内古窯	佐久市大字根岸字榛名平3355-2他 46,700m <sup>2</sup>	住105(純～平), 挿立6, 土坑墓・火葬墓48, 土坑194, 溝109, 井戸址5, 古墳1
13	八幡山遺跡群	佐久市大字香板字兩原他 3,300m <sup>2</sup>	石器製作跡(純前)
14	長土呂遺跡群 聖原遺跡VII	佐久市大字長土呂字長土呂廻し3 123.21m <sup>2</sup>	佐久市埋蔵文化財調査報告書第33集 「聖原遺跡VII・下曾根遺跡I・前藤部遺跡2」
	芝宮遺跡群	佐久市大字長土呂字下芝宮41-1	聖原VII 住3(古～平), 土坑2
	下曾根遺跡I	17m <sup>2</sup>	下曾根I 住3(古)
15	芝宮遺跡群 高山遺跡	佐久市大字長土呂字下高山西21-1 4,705m <sup>2</sup>	住24(平), 挿立6, 土坑22, 渾2
16	長土呂遺跡群 聖原遺跡VI	佐久市大字長土呂 2,500m <sup>2</sup>	住6(平), 挿立17, 土坑3, 粘2, 渾2
17	芝宮遺跡群 南下中原遺跡II	佐久市大字長土呂字南下中原 2,000m <sup>2</sup>	住4(古～平), 挿立2, 土坑1, 渊2
18	立石遺跡	佐久市大字根岸 100m <sup>2</sup>	平成2・3・4年度試掘調査 火葬墓1
19	兵士山・ 五斗代日遺跡	佐久市大字香板字兵士山13-22他 200m <sup>2</sup>	昭和54年度発掘調査 兵士山 住1(平), 五斗代日 遺跡群(純前)
20	野馬庭遺跡	佐久市大字妻久保字野馬庭224-8 1,074m <sup>2</sup>	昭和56年度発掘調査 住2(跡後), 土坑1, 渊1

### 3) 整理調査

No.	遺跡名	所在地 概要	調査 年
1	鹿山・勝負沢・中条峯遺跡	佐久市大字志賀字鹿山・勝負沢 蘿戸字中条峯	平成3・4年度発掘調査 鹿山 住115(第～平), 館1, 土坑224, 古墳1
		佐久リサーチパーク造成事業	勝負沢 住37(第～平), 館1, 土坑11 中条峯 住2(第), 土坑44(第前), 溝1
2	一本森遺跡群 西一本森II・常木遺跡	佐久市大字岩村田字西一本森・常木 下水道工事	平成4年度発掘調査
3	根々井芝宮遺跡	佐久市大字根々井238地 宅地造成	平成4年度発掘調査 住56(第中～平), 館2, 土坑11, 溝4
4	西村遺跡A 山法師遺跡A	佐久市大字根岸 中川川河川局部改良事業	南村A 平成3年度発掘調査 山法師A 平成4年度発掘調査 佐久市埋蔵文化財調査報告書第3集「西村遺跡A 山法師遺跡A」
5	西村遺跡B 山法師遺跡B	佐久市大字根岸 日向地区同体様土地改良総合整備事業	南村B 平成3年度発掘調査 山法師B 平成4年度発掘調査 佐久市埋蔵文化財調査報告書第2集「西村遺跡B 山法師遺跡B」
6	藤原古墳群 藤原遺跡II	佐久市大字藤原字藤原156-2地 貴材雪き場・工場建設	平成3・4年度発掘調査 佐久市埋蔵文化財調査報告書第26集「藤原古墳群・藤原II」
7	乾把坂遺跡群 上久保田内遺跡III	佐久市大字岩村田字上久保田向 ドライイン建設	平成4年度発掘調査 佐久市埋蔵文化財調査報告書第27集「上久保田向III」
8	乾把坂遺跡群 上久保田内遺跡IV	佐久市大字岩村田字上久保田向 ガソリンスタンド建設	平成4年度発掘調査 佐久市埋蔵文化財調査報告書第25集「上久保田向IV」
9	東ノ割遺跡	佐久市大字下平尾字栗前原東ノ割 宅地造成	平成4年度発掘調査 佐久市埋蔵文化財調査報告書第32集「東ノ割」

### 4) 試掘・立会調査

試掘調査 26件(国庫補助金により実施)

立会調査 5件

## 3 普及・公開事業

### (1) 第14回少年考古学教室

開催遺跡 棒名平・坪の内遺跡(佐久市大字根岸)

開催期日 平成5年8月4・5・6日

対象 市内小中学校生徒

内容 8月4・5日は現地にて、出土遺物の展示、佐久地方における発掘調査の成果について説明後、縄文時代前期・弥生時代後期を中心とする竪穴住居址の掘り下げと出土遺物・竪穴住居址等の実見を行った。また、8月6日は朝から雨のため、現地での教室を中止し、埋蔵文化財課事務所にて、遺物等の見学を行った。

② 香沢地区考古学教室

開催遺跡 棒名平・坪の内遺跡

開催期日 平成5年9月11日

対象 香沢区民

内容 地域の歴史と文化財に対する意識昂揚を図ることを目的として、香沢区からの要望があり、区民を対象とした考古学教室を実施した。

当日は土曜日ということもあり、約70名の参加者が訪れ、竪穴住居址等の遺構の掘り下げと出土遺物の見学を行った。このように市民を対象とした考古学教室は当課では初めての開催であつたが、地元の方々の関心の深さが実感され、有意義なものとなつた。



## 4 分析・鑑定

### (1) 藤塚古墳群・藤塚遺跡II

獣骨鑑定

群馬県立大間々高校 宮崎重雄氏

人骨鑑定

聖マリアンナ医科大学 森本岩太郎氏

## 5 刊行図書

- 佐久市埋蔵文化財調査報告書 第25集 「上久保田向IV」  
第26集 「藤塚古墳群・藤塚II」  
第27集 「上久保田向III」  
第28集 「曾根新城遺跡V」  
第29集 「商村遺跡B 山法師遺跡B」  
第30集 「市内遺跡発掘調査報告書1992」  
第31集 「商村遺跡A 山法師遺跡A」  
第32集 「東ノ割」  
第33集 「聖原遺跡VI 下曾根遺跡I 前藤部遺跡2」  
第34集 「西一本柳遺跡I」

### **III 調查概要**

### 凡 例

- 1 本書では平成5年度の発掘調査および報告書の刊行されていない発掘調査・試掘調査の概要を収録した。
- 2 遺跡の位置図は、佐久市発行の50,000分の1地形図を使用した。
- 3 遺跡の概要是、各担当者が執筆した。

## 一本松古墳群 第3号古墳

所在 地 佐久市大字下平尾字一本松

調査委託者 佐久市（都市計画課）

開発事業 公園造成

調査期間 平成5年5月～7月

調査面積 1,000m<sup>2</sup>

調査担当者 小林 貞寿



### 経過と立地

平尾富士の尾根南東斜面に構築された一本松古墳群は3基の円墳により構成される。万助の沢を挟んだ南東方向には丸山古墳群が存在する。

今回の調査は佐久市による公園造成事業に伴い、佐久市から委託を受けた佐久市教育委員会が平成4年の1・2号古墳の調査に引き続き実施したものである。尚、第3号古墳は保存が決定している。

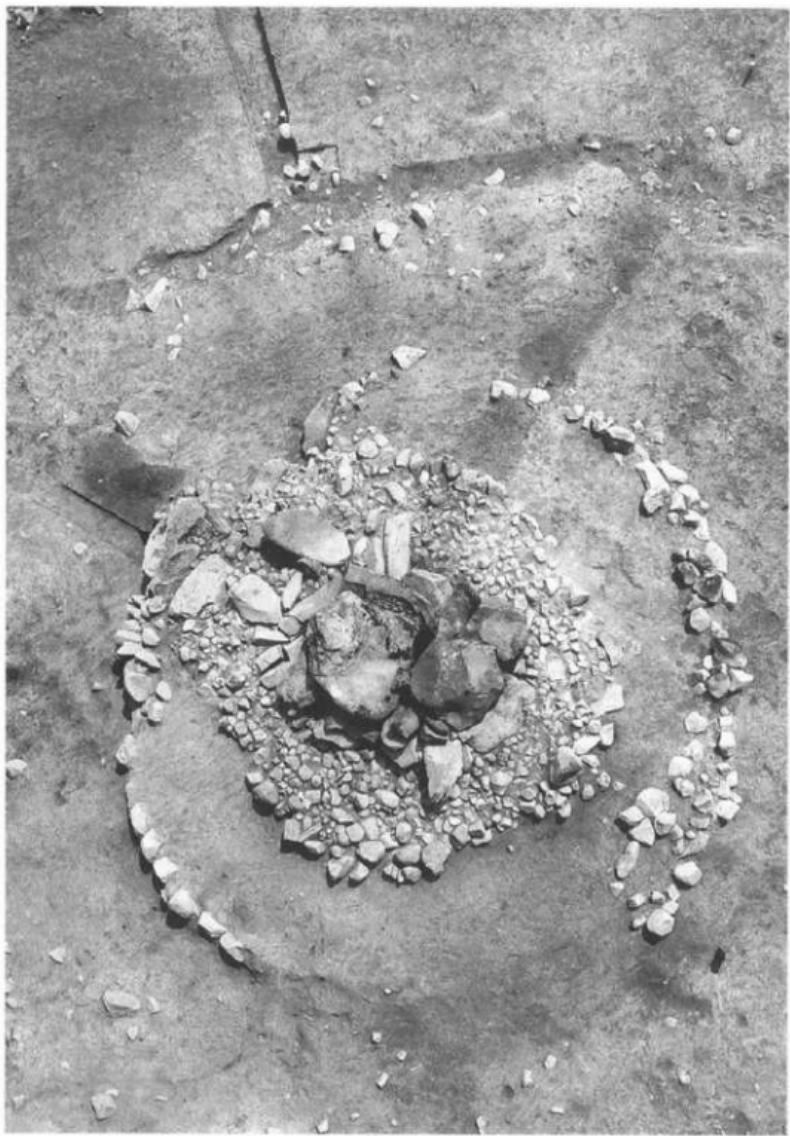
### 調査概要

第3号古墳は標高825mの高所に構築された横穴式石室を有する円墳であり墳丘の直径9m・高さ4mの規模を有し、周囲には幅3～4mの周溝が巡らされている。石室は長さ2m×幅1.2m×高さ1mの羨道部と長さ2.3m×幅1.6m×高さ1.8mの玄室により構成されている。

副葬品は土師器・須恵器などの土器と鎌・鎌・刀子などの鉄器であり、玉・刀剣などは含まれていなかつた。また人骨は正確な人数は不明であるが数人分が出土している。



第3号古墳 全景（北西から）



第3号古墳 全景



第3号古墳 石室（入口方向から）



第3号古墳 遺物出土状況

## 丸山古墳群

所在 地 佐久市大字下平尾  
調査委託者 佐久市（都市計画課）  
開発事業 公園造成  
調査期間 平成5年4月  
調査面積 7,000m<sup>2</sup>  
調査担当者 小林 真寿



### 経過と立地

平尾富士の尾根南東斜面に構築された一本松古墳群と万助の沢を挟んだ南東方向に丸山古墳群は存在する。今回の調査は佐久市による公園造成事業に伴い、佐久市から委託を受けた佐久市教育委員会が実施したものである。

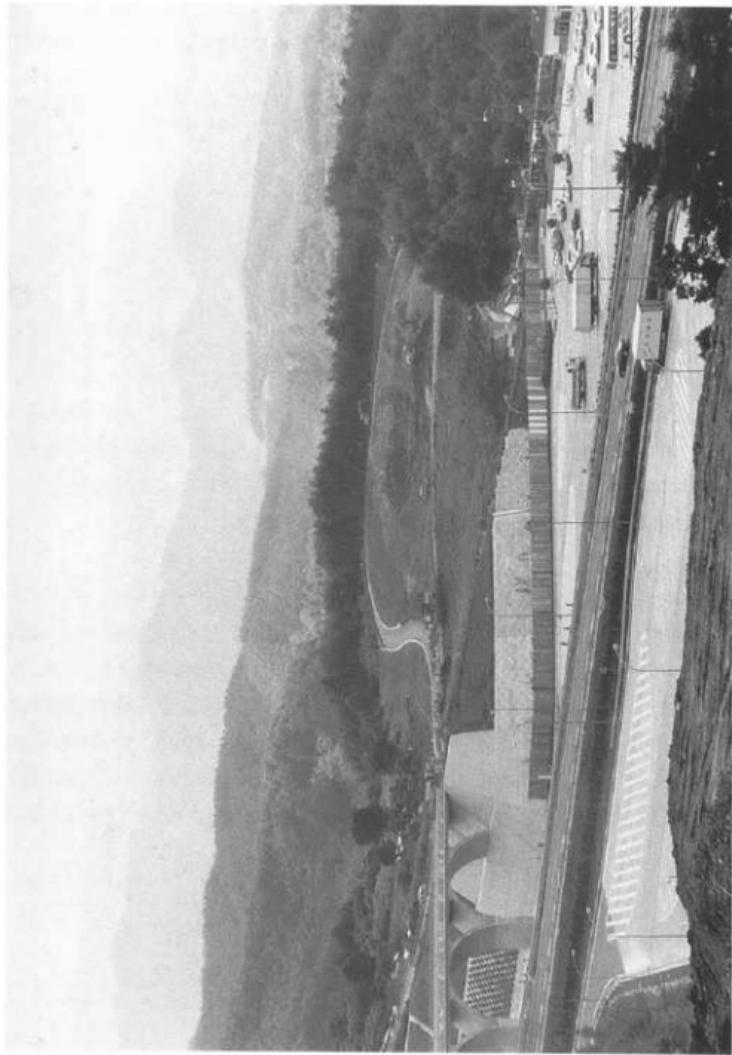
### 調査概要

周知の1号墳の周辺には他に古墳は存在しないことが試掘調査により判明した。しかし、今回新たに開発範囲の境界に接するように、古墳と考えられる高まりが山林内に1カ所存在することが明らかとなつたため2号墳として認知し、その部分の工事に際して立ち会つたが周溝等は確認されなかつた。2基ともに現状保存されている。



丸山古墳群 第2号古墳

丸山古墳群 遺構



## 下伴助A遺跡

所 在 地 佐久市大字下平尾

調査委託者 佐久市（都市計画課）

開 発 事 業 平尾都市公園造成事業

調査期間 平成5年4月2日～6月3日

調査面積 11,000m<sup>2</sup>

調査担当者 小林眞寿・羽毛田卓也



### 経過と立地

下伴助A遺跡は、上信越自動車道佐久平/パーキングエリアの北側に隣接し、平尾山山南西斜面を下る万助川によって形成された谷地段丘上に展開する縄文時代・平安時代・中世の遺跡である。今回、佐久市都市計画課による平尾都市公園造成に伴い、破壊が余儀なくされ発掘調査することとなった。調査地は標高800～840mを測る平尾山山南西斜面に位置する。

### 調査概要

検出された遺構は、縄文時代と平安時代の竪穴住居址15軒、中世の竪穴遺構2軒、掘立柱建物址1棟、古墳（下伴助古墳）1基、土器埋納土坑2基、土坑6基、中世の建物址・柵列6棟、縄文時代・弥生時代・古墳時代・平安時代・中世の遺物包含層10ヶ所である。どの時代の遺構も土石流により押し流されたり埋まっており、特に古墳は墳丘が跡形もなく押し流され、周溝や石室内に土砂が堆積していた。何回かの土石流と万助川の浸食により沢や谷地が埋もれ、台地が形成されたことが集落の成因と考えられる。なお、平安時代の住居址の床下より、役入ガベルトに装着する石帶の部品である蛇紋岩製の丸鞘が出土した。



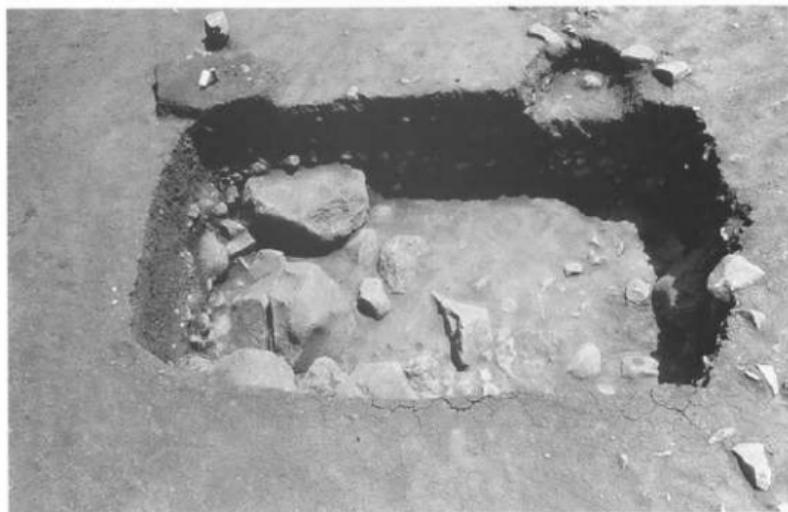
下伴助A遺跡 包含層掘下風景



下伴助A遺跡 繩文時代中期の住居址



下伴助A遺跡 平安時代の住居址



下伴助A遺跡 中世の堅穴遺構



下伴助古墳



下伴助古墳 石室

## 下伴助日遺跡

所 在 地 佐久市大字下平尾・上平尾

調査委託者 佐久平尾山開発株式会社

開 発 事 業 平尾スキー場造成工事

調 査 期 間 平成5年6月4日～10月1日

調 査 面 積 9,300m<sup>2</sup>

調査担当者 羽毛田卓也



### 経過と立地

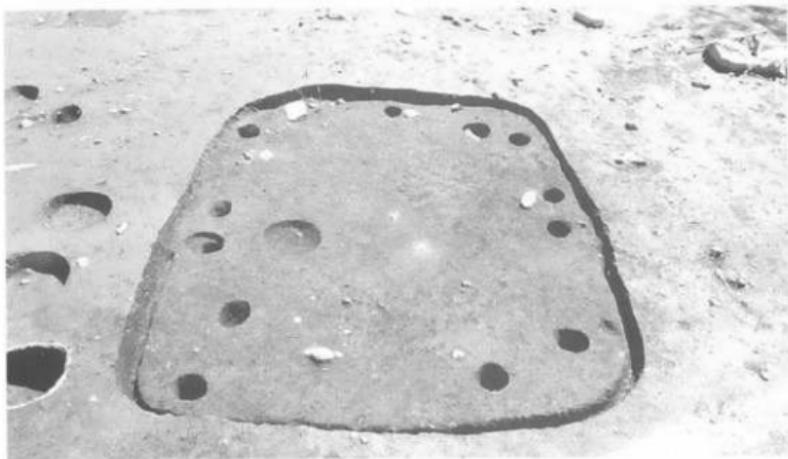
下伴助日遺跡は、龍神池一帯の万助川水源に展開する縄文時代・中世の遺跡である。今回佐久平尾山開発株式会社によるスキー場造成に伴い、本遺跡の破壊が余儀なくされ発掘調査することとなった。今回の調査地は、龍神池に隣接する西側から北側にかけての標高896～951mを渕る谷地斜面上に位置する。

### 調査概要

検出された遺構は、縄文時代前期から中期の竪穴住居址11軒（その内1軒は敷石住居址）、縄文時代早期から中期の土坑34基（土器埋納土坑と落とし穴を含む）、近世と考えられる掘立柱建物址2棟、縄文時代早期から中期の遺物包含層5ヶ所、弥生時代後期・古墳時代前期・平安時代後期・中世の遺物包含層各1ヶ所である。本遺跡は平尾山系の最高所にある集落址である。特に縄文時代中期の住居址の内1軒は、標高922mを測り、現在佐久市の中で最高所に位置する住居址となっている。また龍神池に隣接する湧水地（平尾大社の鳥居付近）の黒色包含層からは、弥生時代・古墳時代・平安時代の遺物が出土した。これにより、古代の水源祭祀や山岳信仰が想定される。



下伴助日遺跡 透景



下伴助日遺跡 魏文時代初期の住居址

## 下伴助砦跡・一本松砦跡

所 在 地 下伴助砦跡 佐久市大字下平尾

一本松砦跡 佐久市大字上平尾

調査委託者 佐久市（都市計画課）

開 発 事 業 平尾都市公園造成事業

調 査 期 間 平成5年8月2日～9月2日

調 査 面 積 下伴助砦跡 3,700m<sup>2</sup>

一本松砦跡 1,600m<sup>2</sup>

調査担当者 羽毛田卓也



### 経過と立地

下伴助砦跡・一本松砦跡は、平尾山より南西に広がる尾根上に展開する中世の遺跡である。今回、佐久市都市計画課による平尾都市公園造成に伴い破壊が余儀なくされ、緊急に発掘調査することとなった。今回調査したのは、下伴助砦跡が砦の南西端の標高830m付近の南西斜面で、一本松砦跡が砦の南端の標高840m付近の南斜面である。両者共に今回の造成に先立ち新しく発見された遺跡である。

### 調査概要

現地形がすでに階段状を呈しており、段曲輪と想定されたため、雜木の伐採後、人力で表土を剥いた。その結果、数段の段曲輪と曲輪斜面の石垣状の石積みを検出した。断層段丘の可能性があつたため、確認トレレンチを掘削した結果、人為的に土砂を移動していることが判明した。またわずかではあるが中世と考えられる陶磁器の破片も出土した。

両砦は、下伴助A遺跡を挟み込むように伸びる尾根上に築かれ、平尾山砦と一体を成すと考えられる。また、平尾山頂に向かって無数の段曲輪といくつかの石積み・平坦面（曲輪）、堀切を確認することができ、かなり規模の大きな山砦であったことがうかがえる。



一本松岩跡 遠景



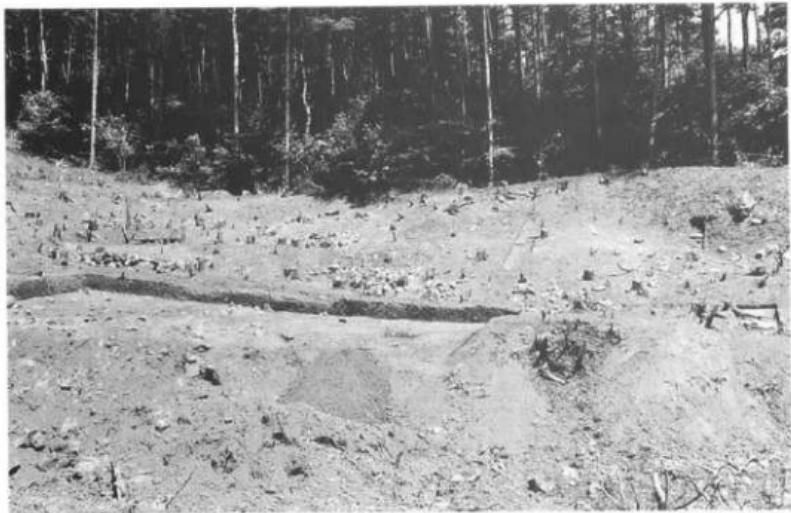
一本松岩跡 石垣換出狀況



下伴助岩篠 遺景



下伴助岩篠 近景



下伴助砦跡 近景（石垣崩落状況）



下伴助砦跡 石垣倒出状況

## 白山砦跡

所在地 佐久市大字上平尾

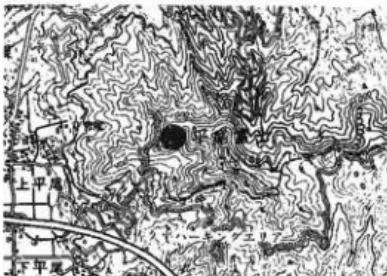
調査委託者 佐久平尾山開発株式会社

開発事業 平尾スキー場造成工事

調査期間 平成5年9月6日～10月1日

調査面積 4,200m<sup>2</sup>

調査担当者 羽毛田卓也



### 経過と立地

白山砦跡は、平尾山の西南西に位置する平尾連山のひとつ白山一帯に展開する中世の砦跡である。今回、佐久平尾山開発株式会社による平尾スキー場造成工事に伴い、破壊が余儀なくされ、緊急に発掘調査することとなった。調査地はスキー・リフト敷地部分で、標高896～1030mを測る白山南斜面である。白山砦跡は、今回の造成工事に先立ち新しく発見された遺跡である。

### 調査概要

調査地付近の地形が一見階段状に見え、所々石積みが露出していたため、雑木の伐採後に人力によって表土を削いた。その結果、十数段の段曲輪と張出曲輪、曲輪斜面の石垣状の石積みを検出した。山体崩落と断層による段丘の可能性があつたために残りの良好な曲輪に確認トレンチを掘削した結果、人為的に斜面を削り、土砂や石を移動していることが判明した。また、標高1,000m付近に露出していた岩石群の表面清掃を行った結果、地の岩を利用して石垣を築き、上部に張出曲輪を造成していることが確認された。

南西の一本松砦跡を尾根に沿って登ると、白山砦跡に到達する。さらに尾根を登ると平尾山砦跡に到達する。また白山砦跡より西側の尾根を降りると平尾城に到達する。平尾城を含めると平尾山全体が城塞化していると考えられる。



白山砦跡 白線は段曲輪



白山砦跡 中央奥が張出曲輪の石垣

## 櫛畠遺跡

所在地 佐久市大字上平尾  
調査委託者 佐久平尾山開発株式会社  
開発事業 スキー場造成工事  
調査期間 平成5年4月3日～  
平成6年3月31日  
調査面積 8,800m<sup>2</sup>  
調査担当者 上原 学 森泉 かよ子



### 経過と立地

櫛畠遺跡は、平尾山の北側斜面、舌状に張り出した台地の先端部及び、北側を流れる湯川によって形成された河岸段丘上に位置する。標高は748m～779mを測る。

今回、佐久平尾山開発株式会社による、スキー場造成工事が行われることとなり、遺構の有無を確認するため、事前に試掘調査を行った。その結果、調査を必要とされる地域は5ヶ所にのぼり、それぞれⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ地区とした。

### 調査概要

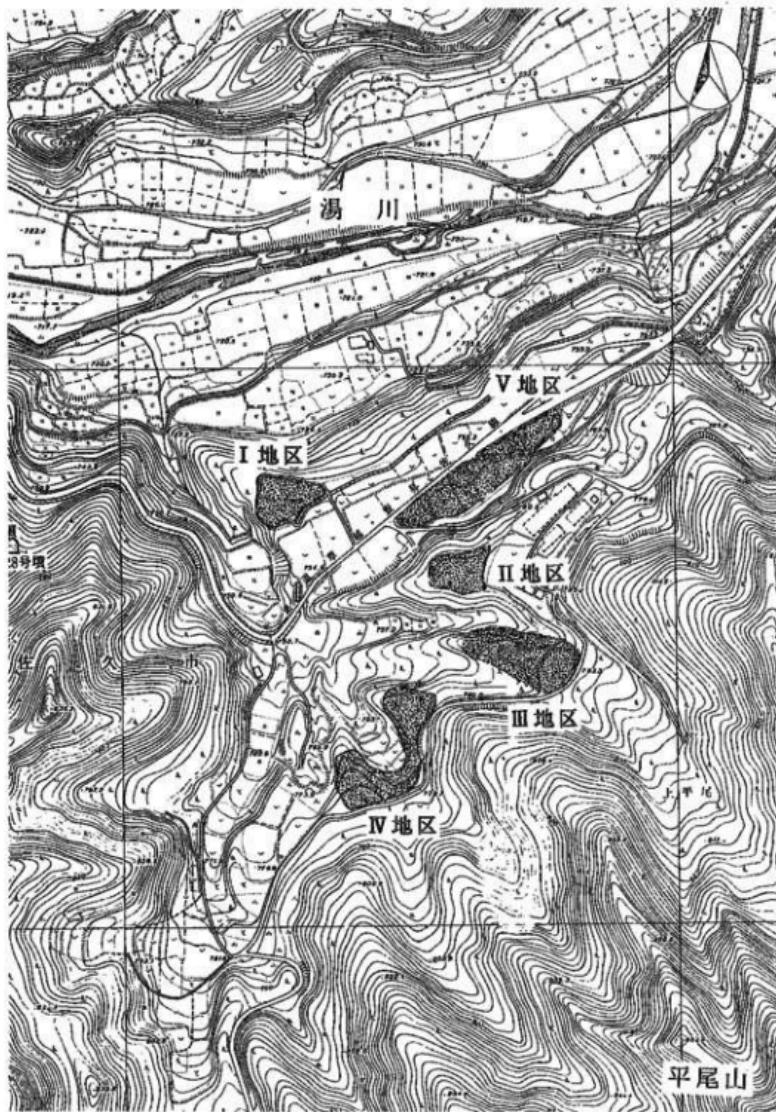
本年度は、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ地区の調査を行った。調査の結果、縄文時代の住居跡13軒、古墳時代の住居跡10軒、平安時代の住居跡2軒、竪穴状遺構6、土坑101基を確認した。

遺物は、縄文式土器・土師器・須恵器・石器・鐵器などを出土した。

地区ごとの検出状況は、以下のとおりである。

I 地区 遺構：縄文時代の住居跡	6軒	II 地区 遺構：古墳時代の住居跡	4軒
(1,700m <sup>2</sup> ) 平安時代の住居跡	2軒	(1,000m <sup>2</sup> ) 縄文時代の土坑	31基
縄文時代の土坑	24基		

III 地区 遺構：古墳時代の住居跡	6軒	IV 地区 遺構：縄文時代の住居跡	7軒
(3,000m <sup>2</sup> ) 縄文時代の土坑	30基	(3,100m <sup>2</sup> ) 縄文時代の土坑	16基



棚相遺跡 調査区位置図



| 地区 全景



| 地区 繩文時代中期の住居跡



I 地区 駒文時代中期の土坑



II 地区 古墳時代前期の住居跡

## 曾根新城遺跡III・VI

所 在 地 佐久市大字長土呂字曾根新城

調査委託者 佐久市（区画整理課）

開 発 事 業 佐久都市計画事業岩村田北部第一  
土地区画整理事業に伴う道路建設工事

調 査 期 間 平成5年9月6日～10月25日

（曾根新城遺跡III地区）

平成5年12月2日～平成6年1月19日

（曾根新城遺跡VI地区）

調 査 面 積 1,000m<sup>2</sup> (III地区)・775m<sup>2</sup> (VI地区)

調査担当者 高村博文・須藤隆司・森泉かよ子



### 経過と立地

曾根新城遺跡は佐久市の北部、浅間山南麓の末端部にあたり、南西方向にのびる田切り地形の台地上にある。標高は733～737mを測る。

本遺跡は、平成元年度の岩村田北部第一土地区画整理事業に伴う仙禄湖線工事に先立ち発掘調査が実施され、「曾根新城遺跡I」として竪穴住居址等が検出されている。今回も事業の継続に伴う区画道路分の発掘調査である。

### 調査概要

今回発掘調査を行った曾根新城遺跡III地区からは、竪穴住居址4棟、土坑10基（縄文時代の落とし穴3基）、溝状遺構1条等が検出された。VI地区からは竪穴住居址3棟、土坑3基、溝状遺構9条、ビット群が検出された。

III地区北側は蟹沢の田切りの縁辺に沿っており、検出されたH12号竪穴住居址の北側は崩壊している。大型で南東隅近くの東壁にカマドを持ち、北東に張り出しを持つ曲がり屋根の形態の住居址である。出土遺物には須恵器の大型壺の破片、土師質の小皿・皿・楕円形がある。

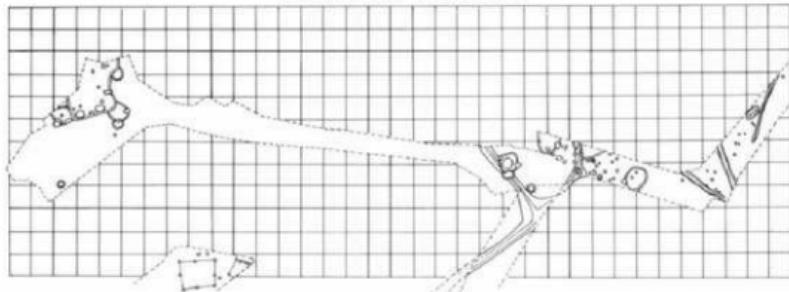
溝状遺構は調査区中央で検出され、曾根新城V・I地区でも連続することが確認され、約80m×60mの方形に囲んでいる。この溝は南東カマドの住居址（11末～12世紀）に切られていることから、平安時代に区画の意図を持って掘られたものであろう。



曾根新城遺跡III・VI



曾根新城遺跡III 第12号住址



曾根新城遺跡III・VI全体図 (1:1,000)

## 枇杷坂遺跡群上久保田向遺跡II・VI

所 在 地 佐久市大字岩村田字上久保田向

調査委託者 佐久市（区画整理課）

開 発 事 業 佐久都市計画事業岩村田北部第一  
土地区画整理事業に伴う道路建設工事

調査期間 平成5年9月1日～10月30日

（上久保田向遺跡VI）

平成5年10月26日～11月5日

（上久保田向遺跡II）

調査面積 440m<sup>2</sup>（VI地区）・250m<sup>2</sup>（II地区）

調査担当者 森泉かよ子



### 経過と立地

枇杷坂遺跡群上久保田向遺跡は、浅間山南麓末端の田切り地形が発達した地域に所在する。平成元年度より実施された佐久都市計画事業岩村田北部第一土地区画整理事業の道路建設の継続事業に伴う発掘調査である。

### 調査概要

上久保田向遺跡II地区では中世の土壙墓3基、溝状遺構1本と河川跡が検出されている。VI地区では河川跡が検出された。この河川跡はVI地区的北端で、幅7mであるが、50m下のII地区では、幅20mに広がっている。

II地区的土壙墓はこの河川跡と北に入る盆地の田切りとの幅20m程の狭い台地にあり、この河川跡の右岸に沿って並んで検出された。土壙墓は黒色土を掘り込んで構築され、人骨を良好な状態で残していた。



上久保田向遺跡Ⅱ  
全景



上久保田向遺跡Ⅱ  
第17号土坑



上久保田向遺跡Ⅱ  
第17号土坑  
人骨出土状況

## 曾根新城遺跡V

所在地 佐久市大字長土呂字曾根新城

調査委託者 中沢 健

開発事業 貨店舖・駐車場建設

調査期間 平成5年11月1日～

平成6年3月31日

調査面積 3,300m<sup>2</sup>

調査担当者 高村 博文



### 経過と立地

曾根新城遺跡は佐久市の北部、浅間山南麓の末端部にあたり、南西方向にのびる田切り地形の台地上にある。標高は734～736mを測る。

本遺跡は、平成2年度の岩村田北部土地区画整理事業に伴う仙禄湖線工事に先立ち発掘調査が実施され、「曾根新城遺跡」として竪穴住居址等が検出されている。

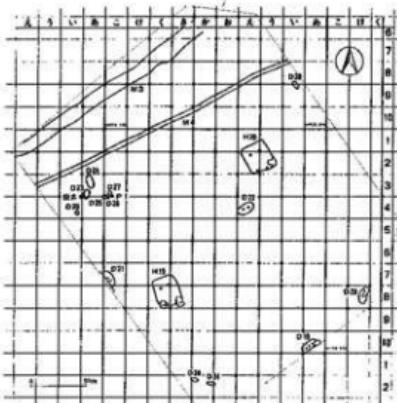
今回、中沢 健氏により貨店舗及び駐車場建設（株式会社アルペン）が計画され、試掘調査を行った結果遺構の存在が確認されたため、発掘調査を実施することとなつた。

### 調査概要

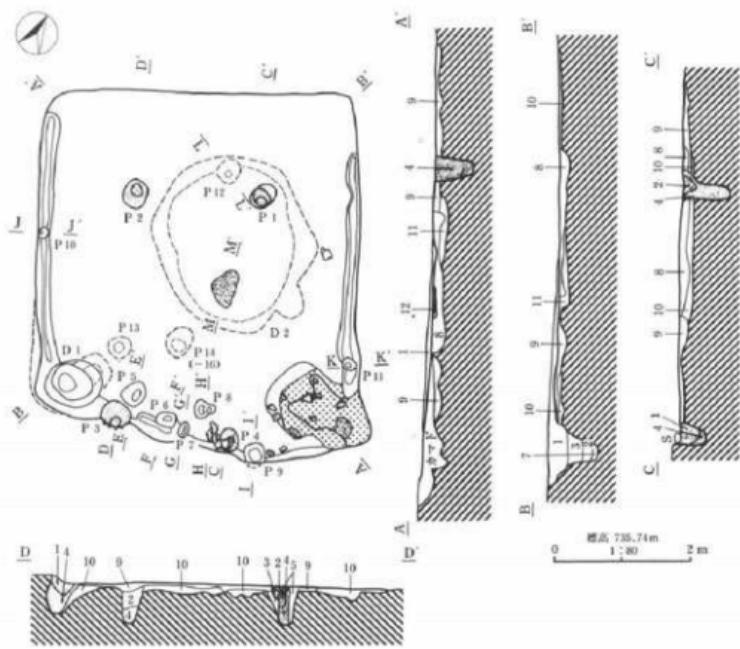
今回発掘調査を行つた曾根新城遺跡V地区からは、竪穴住居址2棟、土坑12基（縄文時代の落とし穴4基）、溝状遺構2条等が検出された。

検出された2棟の竪穴住居址は、南東隅にカマドを持ち、出土遺物に羽釜・环・楕・小皿・高台付きの皿形土器等があることから11世紀末から12世紀代に位置付けられる。

近年の発掘調査により、平安時代末から中世にかけての資料が集積されつつあり、今後の調査に期待したい。



曾根新城遺跡V地区全体図



第20号住居址実測図



第20号住居址出土土器

## 栗毛坂遺跡群西曾根遺跡III

所 在 地 佐久市大字岩村田字西曾根67

調査委託者 佐久市（区画整理課）

開 発 事 業 佐久都市計画事業岩村田北部第一  
土地区画整理事業に伴う道路建設工事

調査期間 平成5年12月2日～12月13日

調査面積 300m<sup>2</sup>

調査担当者 森泉かよ子

### 経過と立地

栗毛坂遺跡群西曾根遺跡は、浅間山南麓末端部の田切り地形が発達した地域に所在する。平成元年度より実施された佐久都市計画事業岩村田北部第一土地区画整理事業の道路建設の継続事業に伴う発掘調査である。東隣に接する雇用促進住宅造成事業に伴う調査では堅穴住居2棟、掘立柱建物址17棟、土坑5基を検出している。また調査区南の区画道路でも掘立柱建物址1棟が検出されている。

### 調査概要

今回の調査区は幅4mと狭く、現在の堤が調査区の中央を流下しており、検出面を下げたため遺構の残りが良くなかった。多くのピットが検出され、掘立柱建物址と考えられるものが6棟ほど組むことができたが、全体を検出することができなかつたので確実ではない。検出されたピットの総数は108個である。この他、土坑1基、小河川跡が1条検出された。



西曾根遺跡III 全景

## 榛名平遺跡・坪の内古墳

所 在 地 佐久市大字根岸字榛名平・坪の内

調査委託者 長野県土地開発公社

開 発 事 業 厚生年金保険福祉施設建設事業

調 査 期 間 平成5年4月19日～平成6年3月31日

調 査 面 積 46,700m<sup>2</sup>

調査担当者 高村 博文・林 幸彦・三石 宗一  
須藤 隆司・小林 真寿・羽毛田卓也  
富沢 一明・上原 学・佐々木宗昭



### 経過と立地

本遺跡は、佐久盆地の西端、佐久市根岸に所在する。遺跡の地形は蓼科山麓末端の西から東へ傾斜する丘陵地形で、宮川・中沢川を見おろす台地状を呈する。調査区の標高は、台地中央部で680mを測る。周辺の遺跡としては、西約400mの尾根上に瀧の峯古墳群が、また北西約1kmには、石附窯址群が存在する。榛名平遺跡の調査は過去4回行われている。なかでも昭和53年に岸野村考古資料の調査に伴い当遺跡内の表面採集がなされ、坪の内古墳などの所在確認とともに、地元住民の方が所蔵する石器が神子柴型尖頭器であることが判明し注目をあつめた。



榛名平遺跡・坪の内古墳付近航空写真

## 調査概要

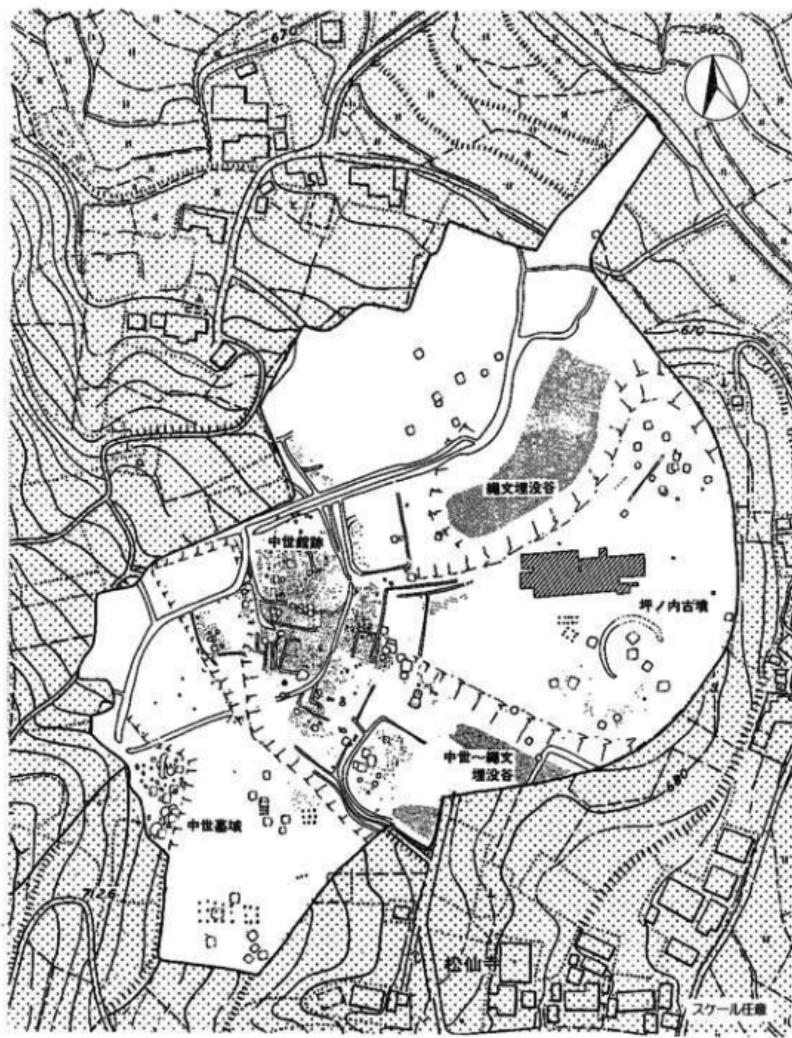
今回の発掘調査では、集落址として調査区台地南面にそういうように縄文時代前期から平安時代後期の竪穴式住居址106軒が検出された。各住居址は、台地斜面に構築されていた為、残存状況はいずれも不良であつた。台地先端部において古墳（坪の内古墳）が発見されている。この坪の内古墳は、調査の結果直径30m内外の円墳で、主体部は破壊が著しかつたが、横穴式石室であることが確認された。石室内からは、銀銅製耳環・ガラス小玉が出土している。

また、台地平坦部においては、竪穴状遺構・掘立柱建物址を溝で方形に囲むように中世館跡（14～16世紀頃）が発見された。検出された掘立柱建物址の柱跡は、殆どが約15～20cmほどの方形を呈しており、一部木質の柱材が出土した。竪穴状遺構は、規模が一辺5～7mを測り、壁ぎわに石積みを持つものや、焼失状の遺構からは炭化米が出土した。調査区西方端からは、館跡をみおろすように一部五輪塔を伴う墓跡が48基検出されている。墓跡は、土壙墓・火葬墓・石を詰めた土壙墓など多様であったが、各遺構は重複もなく、配置も規則性があるように検出されている。出土遺物としては、開元通宝・洪武通宝・永楽通宝などの古錢やくぎ状の鉄製品がある。

埋没谷からは、縄文～中世の包含層中より縄文時代前期（関山式・神ノ木式）の土器が、同じく中世の包含層中より下駄・椀などの木製品とともに多量に出土している。



棟名平遺跡Ⅲ地区



棲名平遺跡全体図



中世のピット群と方形区画溝



縄文時代中期の住居址



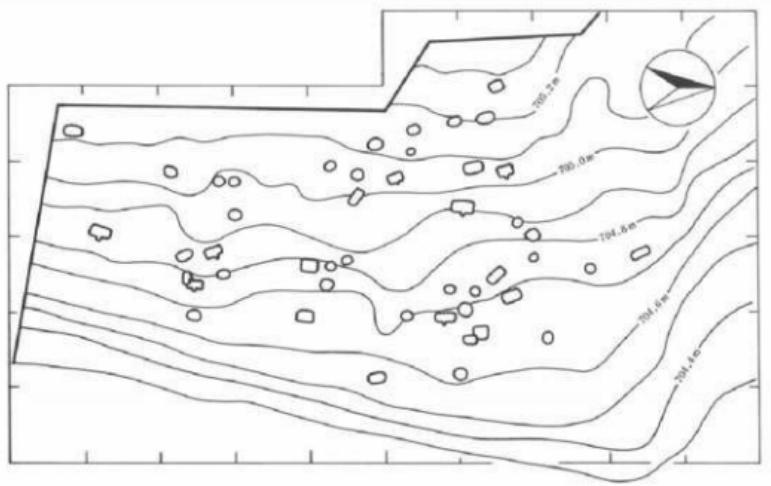
遺物出土状況



弥生時代後期の住居址 遺物出土状況



平安時代のカマド



榛名平遺跡Ⅲ地区 土壙墓・火葬墓配置図

0 10m

榛名平遺跡Ⅲ地区では、中世後期の所産と考えられる墓域が発見された。墓の形態は右に示した様な土壙墓・石結めの土壙墓・火葬墓がある。土壙墓の形態は方形のもののが多數であり、座棺規模の円形土壙も存在した。火葬墓は煙道を付けた様な形態のものであつた。各々の墓は約一体分の人骨を埋葬可能と考えられるが、小型の土壙墓で人骨の一部しか検出できないものもあり、今後の位置づけが問題となろう。



石を結めた土壙墓



土壙墓



火葬墓

## 八風山遺跡群

所 在 地 佐久市大字香坂字爾原

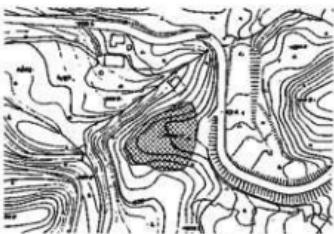
調査委託者 交米興産株式会社

開 発 事 業 佐久高原レクリエーション施設造成

調 査 期 間 平成5年9月20日～11月17日

調 査 面 積 3,300m<sup>2</sup>

調査担当者 須藤 隆司



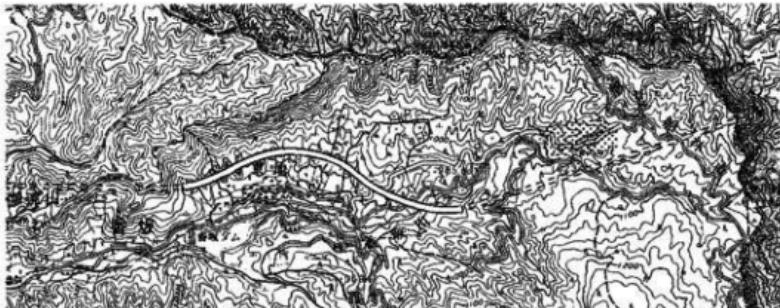
調査区 (1:5,000)

### 経過と立地

八風山遺跡群は、黒色緻密安山岩原産地である八風山の西南麓緩斜面に位置する石器製作遺跡群である。遺跡は、標高1,000m前後を跨る山間地の尾根状平坦面と小段丘状平坦面に立地する。本年度の調査は、オートキャンプ場調節池造成に伴う発掘調査である。

### 調査概要

本年度調査の遺跡立地は、小河川と香坂川が合流する尾根先端の平坦面である。遺物の出土層位は、約5,000年前前後に浅間火山から噴出したと推定されるテフラ下位の黒褐色黒ボク土である。遺物は、縄文時代前期初頭の土器群と石鏃・打製石斧・削器・楔形石器・剝片・碎片・石核等の石器群であり、総数は約4,400点である。遺構は、土坑13基である。遺跡の性格は、原産地における石器製作址である。その特徴は、遺物の大半が黒色緻密安山岩の剝片・碎片であること、石斧などの半完成品が検出されていること、分布が怪5m程のブロック群で構成されていること、住居址等の集落を構成する遺構が存在しないことである。





遺物の分布



石斧出土状態



## 聖原遺跡VII 下曾根遺跡I

所 在 地 佐久市大字長土呂

調査委託者 東京電力株式会社千曲川電力所

開 発 事 業 鉄塔移設工事

調 査 期 間 平成 5年 9月16日～30日

調 査 面 積 聖原遺跡VII 123.21m<sup>2</sup>

下曾根遺跡I 17m<sup>2</sup>

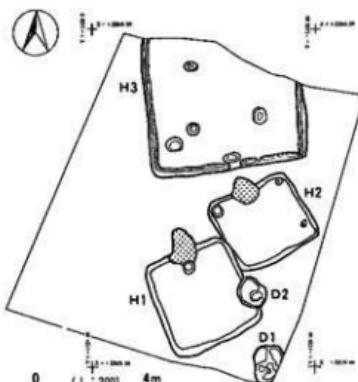
調査担当者 林 幸彦

経過と立地

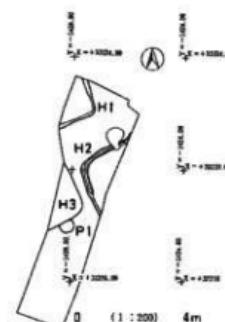
佐久市北端の小諸市境付近は田切り地形の発達した地域であり、この田切りに挟まれた台地上には多くの遺跡群が存在している。今回、東京電力株式会社千曲川電力所により北佐久線の送電鉄塔移設工事が計画されたため、記録保存のための発掘調査を実施することとなつた。

### 調査概要

今回の調査は、送電鉄塔基礎部分のみの限られた範囲での発掘調査であったが、聖原遺跡VIIで住居址3棟（古墳時代後期1棟、平安時代2棟）、土坑2基、下曾根遺跡Iで住居址3棟（古墳時代後期後半）が検出された。本遺跡付近は上信越自動車道・佐久流通業務団地造成事業等に伴う大規模な発掘調査が継続して行われている地域であり、今回検出された遺構もその一端である。



聖原遺跡VII全体図



下曾根遺跡I全体図



聖原遺跡VII 全景



下曾根遺跡Ⅰ 全景

## 芝宮遺跡群高山遺跡

所 在 地 佐久市大字長土呂字下高山721-1他

調査委託者 佐久市土地開発公社

開 発 事 業 宅地造成

調 査 期 間 平成5年4月3日～8月31日

調 査 面 積 4,705m<sup>2</sup>

調査担当者 三石 宗一



### 経過と立地

芝宮遺跡群は佐久市の北部、浅間南麓末端部の南西に放射状にのびる台地上に所在し、田切りを挟んで北方に周防畠遺跡群・近津遺跡群、南方に長土呂遺跡群・枕杷坂遺跡群が展開している。高山遺跡は芝宮遺跡群の西端部に位置し、標高は719m前後を測る。本遺跡群内では昭和54・55・57年度に芝宮遺跡第一・二・三次の発掘調査が行われたのをはじめとして、昭和62・63年度に下芝宮遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、南上中原・南下中原遺跡、平成元年度に上高山遺跡Ⅰ、平成3年度に上高山遺跡Ⅱ、平成4年度に上芝宮遺跡、平成5年度に南下中原遺跡Ⅱの調査が相次いで行われ、上信越自動車道の開通などに伴い、周辺の遺跡群とともに今後も発掘調査の増大が予想される地域である。

今回、佐久市土地開発公社により宅地造成事業が計画され、遺跡の破壊が余儀なくされる事態となり、協議の結果、記録保存のため佐久市教育委員会が発掘調査を実施することとなつた。

### 調査概要

今回の調査で検出された遺構は、竪穴住居址24棟、掘立柱建物址6棟、土坑22基、溝状遺構2条、ピット等であり、出土遺物には土師器・須恵器・灰釉陶器・鉄製品等がある。検出された竪穴住居址はいずれも平安時代のものであり、カマドの位置は北壁中央が8棟であるのに対し、東南隅に構築されるものが14棟と多く、これらの住居址からは土師質土器小皿・羽釜等が出土している。



第18号住居址カマド



高山遺跡付近航空写真



高山遺跡付近航空写真

## 長土呂遺跡群聖原遺跡VI

所 在 地 佐久市大字長土呂

調査委託者 佐久市土地開発公社

開 発 事 業 佐久流通業務団地造成

調査期間 平成5年8月4日～10月16日

調査面積 2,500m<sup>2</sup>

調査担当者 三石 宗一



### 経過と立地

長土呂遺跡群は佐久市の北部、浅間山南麓末端部の南西に放射状にのびる田切り地形にはさまれた台地上に展開する。聖原遺跡は長土呂遺跡群のほぼ中央に位置し、標高735～744mを測り、南西に向かって緩やかに傾斜する。聖原遺跡VIは、平成4年度に調査された聖原遺跡V・Ⅸ・A地区の北側に隣接し、西側には上信越自動車道の開通に伴い、平成2年度に長野県埋蔵文化財センターにより調査された長土呂遺跡群が存在する。この他本遺跡群内では、昭和63年度に上聖端遺跡・上大林遺跡・下聖端遺跡I・平成元年度に聖原遺跡II・下聖端遺跡II・平成4年度に下聖端遺跡III・平成5年度に聖原遺跡VIIの発掘調査が行われ、さらに、周辺の遺跡群内においても上信越自動車道・北陸新幹線関係、区画整理事業、その他民間開発等に伴う大規模な発掘調査が継続して行われている。

### 調査概要

平成5年度に調査を実施した聖原遺跡VIは、平成元年度から調査を行っている聖原遺跡I・III・IV・Vの継続事業であり、調査面積は約76,300m<sup>2</sup>に及ぶ。

聖原遺跡VIで検出された遺構は、竪穴住居址7棟、掘立柱建物址17棟、土坑3基、粘土坑2基、溝状遺構3条等であり、上聖端遺跡、聖原遺跡I・III・IV・V・VIで検出された遺構の総数は、竪穴住居址約850棟、掘立柱建物址約720棟を数える。さらに、平成6年度には、聖原遺跡VIの東側及び北側の約13,000m<sup>2</sup>について調査が行われ、竪穴住居址87棟、掘立柱建物址67棟、土坑、粘土坑、溝状遺構等が検出されている。



聖原遺跡付近航空写真



聖原遺跡VI航空写真

## 芝宮遺跡群南下中原遺跡II

所 在 地 佐久市大字長土呂字南下中原  
調査委託者 出光興産株式会社 松本支店  
開 発 事 業 ガソリンスタンド建設  
調 査 期 間 平成5年5月10日～6月18日  
調 査 面 積 2,000m<sup>2</sup>  
調査担当者 佐々木宗昭



### 経過と立地

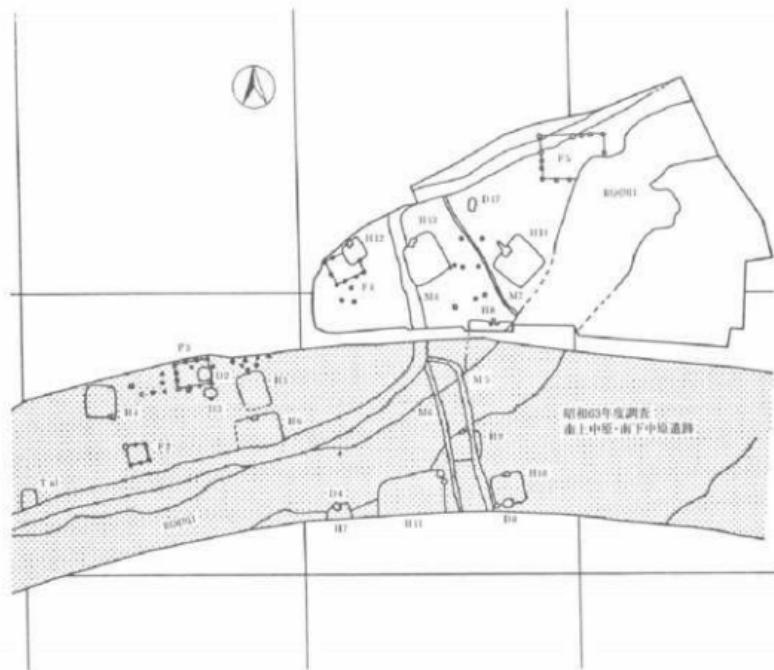
南下中原遺跡IIの存在する芝宮遺跡群は、佐久市大字長土呂に所在し、浅間山に源を発する渋川の浸蝕による田切り地形の北側、標高720～760mを測る台地上に位置する。この台地の南側には長土呂遺跡群が展開しており、両遺跡群内で昭和63年度に南上中原・南下中原遺跡、上聖端遺跡が調査され、昭和63年度・平成元年度に上大林遺跡、下聖端遺跡I・II、平成元年度に聖原遺跡II、平成4年度に下聖端遺跡IIIの調査が実施された。さらに、平成元年度から平成6年度までに聖原遺跡で約90,000m<sup>2</sup>の調査が行われ、平成7年度も継続して行われる予定である。

今回、出光興産株式会社松本支店が実施する佐久インターSS（ガソリンスタンド）新築工事の計画地籍は、昭和63年度に調査が行われた南上中原・南下中原遺跡に隣接する地点であり遺構が包囲されている可能性が大きかった。このため試掘調査を行つたところ遺構の存在が確認され、遺跡の破壊が余儀なくされる事態となり緊急に記録保存する必要性が生じた。そこで出光興産株式会社松本支店より佐久市教育委員会が委託を受け発掘調査を実施する運びとなつた。

### 調査概要

今回調査を実施した南下中原遺跡IIは、全体図に示したように昭和63年度に発掘調査を行つた南上中原・南下中原遺跡に接する地点である。

調査の結果、古墳時代後期から平安時代の住居址4棟、掘立柱建物址2棟、溝状遺構2条、旧河川、甕文時代の落し穴が検出された。これら検出された遺構の内、第8号住居址、第4号溝状遺構、旧河川Iは前述した「南上中原・南下中原遺跡」において発掘調査区域外となつた遺構であり、今回その続きを確認された。



南下中原遺跡II及び南上中原・南下中原遺跡全体図(1:800)



第14号住居址(南方より)



第14号住居址カマド

## 立石遺跡

所在 地 佐久市大字根岸

調査委託者 萩原地区土地改良組合

開発事業 土地整備事業

調査期間 平成5年8月25日～30日

調査面積 100m<sup>2</sup>

調査担当者 林 幸彦



### 経過と立地

立石遺跡は、夢科山北西麓の丘陵末端部に位置し、標高は700m前後を測る。本遺跡は平成2年度から4年度にかけて3度にわたる試掘調査が行われ、昭和57年度には国道142号バイパス工事に際して試掘調査が実施されている。近接して石附遺跡が存在しており、昭和56年度・平成元年度に発掘調査が行われ、須恵器窯址群・木炭窯址群・古墳時代の方形周溝墓等が検出されている。

今回、平成4年度の試掘調査により、西側の石附川に面した斜面から火葬墓とみられる土壙が1基確認されたため発掘調査を実施した。

### 調査概要

火葬墓の平面形は、長軸152cm×短軸103cmの不整の楕円形を呈する。深さは45cmを測るが、北西側は、傾斜面のため壁を消失し浅い。主軸はN-42°-Wを指す。相浜層の柔らかな岩盤に構築されていた。底面に接して30～40cmの大角礫6個が置かれ、中央は5cm程度70cmの円形状に掘り窪められていた。覆土の2・3層は、焼土・炭・人骨片を含み、一部6個の櫛上面にもみられた。2層は特によく焼けており焼土塊となっている。人骨は、中央の櫛付近に集中して出土した。

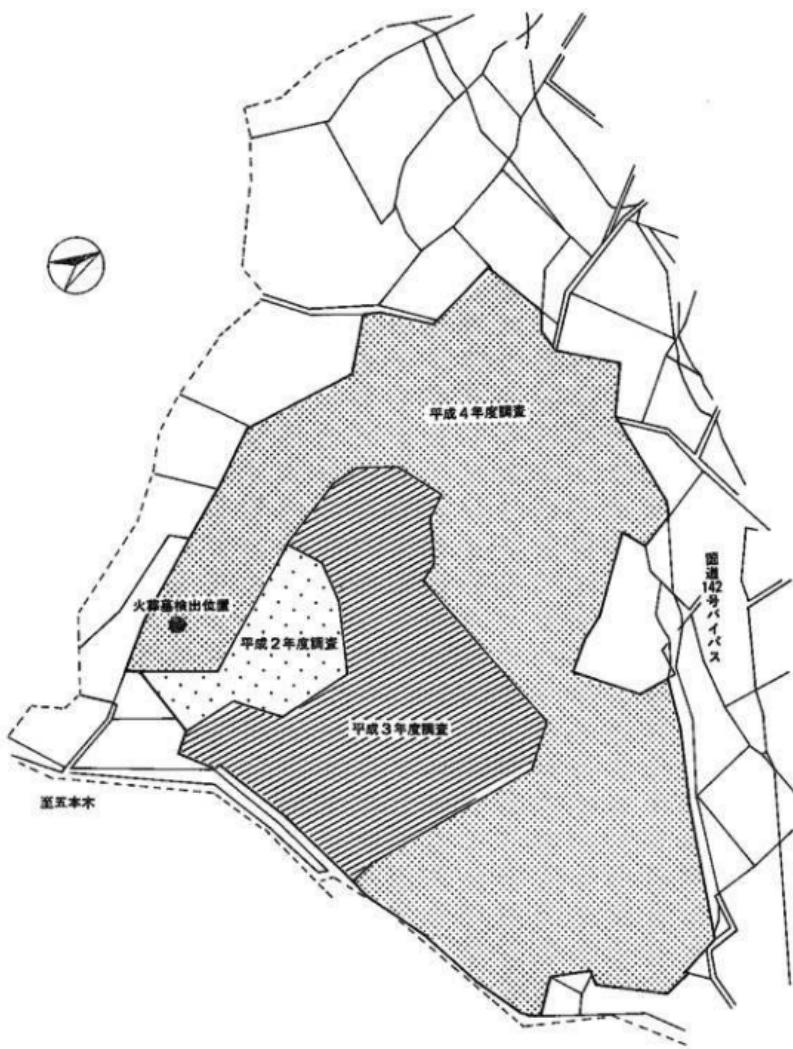
人骨は、現在分析を依頼中であるため詳細は明らかでない。



火葬墓（北西から）



火葬墓（南西から）



立石遺跡 調査区設定図 (1:2,000)

## 兵士山遺跡 五斗代B遺跡

所 在 地 佐久市大字香坂字兵士山

字五斗代

調査委託者 交通公社総合開発株式会社

開 発 事 業 香坂地区リノート開発

調 査 期 間 昭和54年12月10日～

昭和55年1月18日

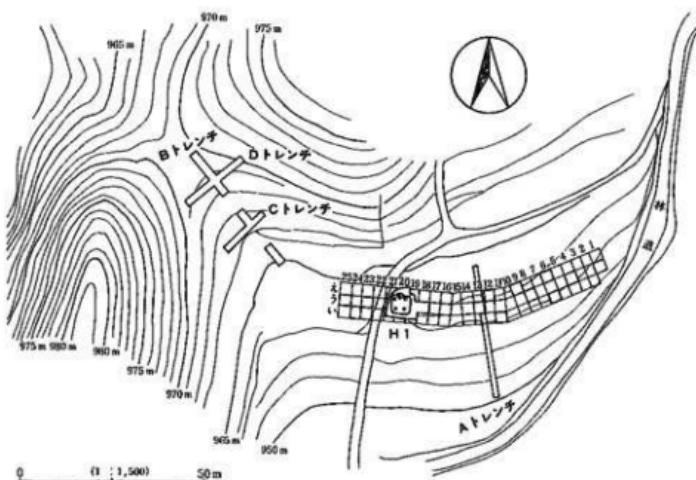
調 査 面 積 200m<sup>2</sup>

調査担当者 藤沢 平治

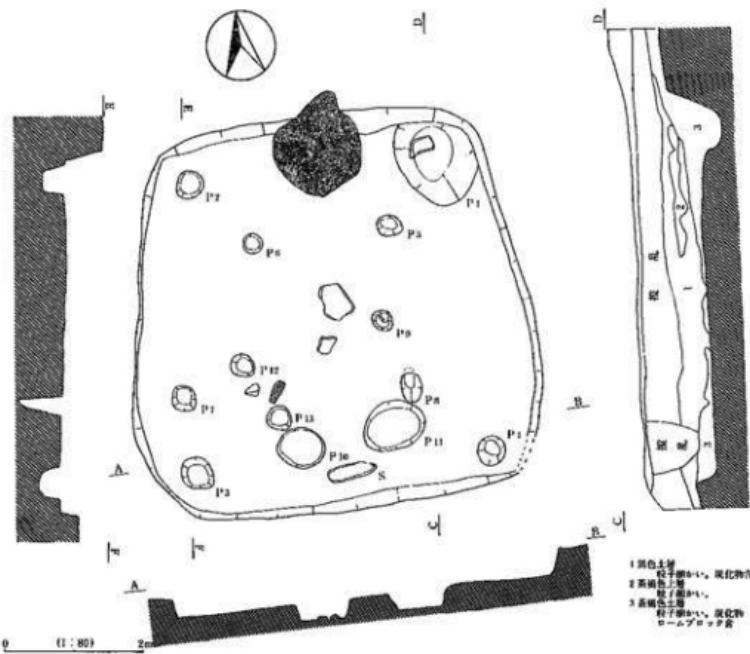
経過と立地



兵士山遺跡・五斗代B遺跡は佐久市の東北端部に位置し、標高は960m付近を測る。両遺跡とも香坂川北岸の小平坦面に存在し、河床との比高差は約20mである。香坂川流域は兩原A・B遺跡、曲尾遺跡、木戸平A・B遺跡をはじめとする縄文時代の遺跡が濃密に分布する地域であり、平安時代の遺構も数多く確認されている。本調査は交通公社総合開発株式会社によるリノート計画の一環である道路拡幅・キャンプ施設建設に伴う発掘調査及び試掘調査である。



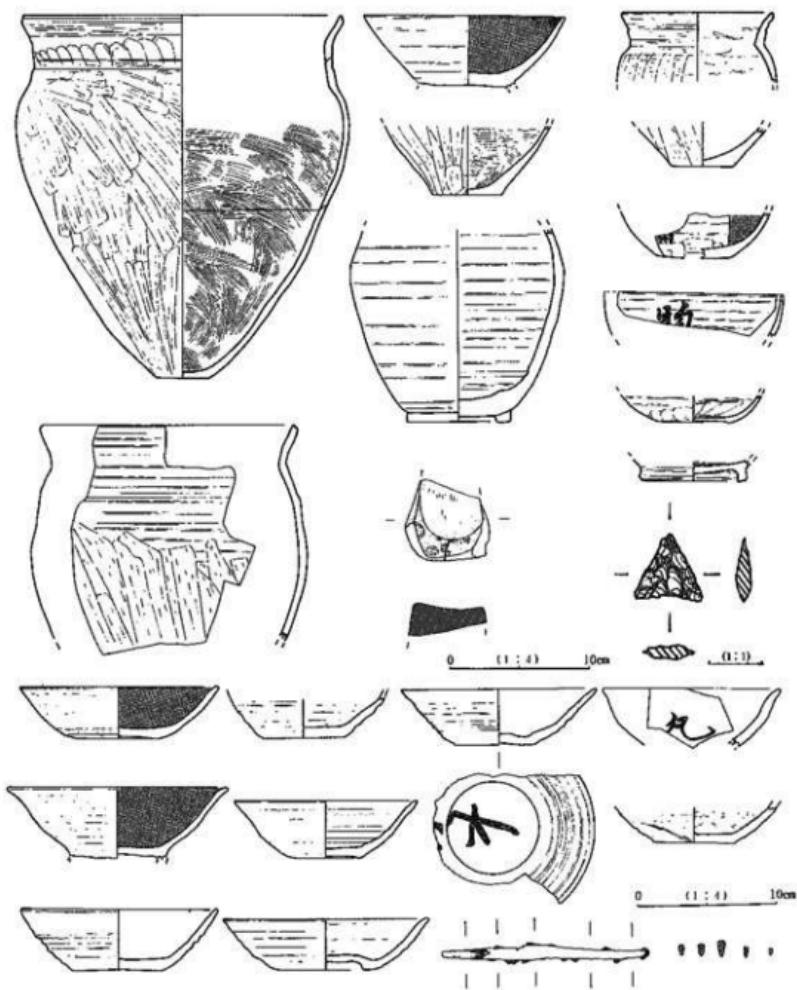
兵士山遺跡地形及び全体図



第1号住居址実測図

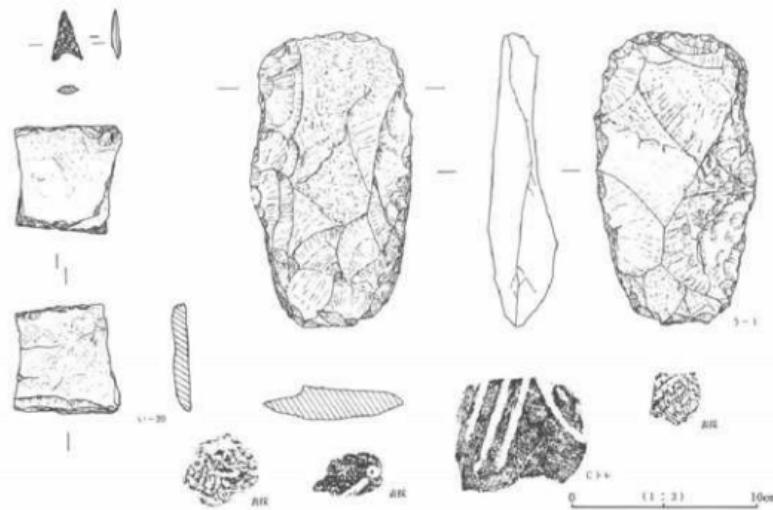
#### 調査概用

兵士山遺跡第1号住居址は、小平坦部の中央北側の山斜面が平坦面となる際より検出された。ほんの1m離れて開拓に入られた方の廐屋がある。道路用地内からは本住居址のみの検出であり、この地点が宅地としての好条件を備えていたことが、千年の時を超えて同一場所に居が構えられたことの事実が示している。調査が冬季期間にもかかわらずこの高所で比較的あたたかであったのもその所以であろうか。本住居址は、南に向けて緩く傾斜する地形に構築されている。その地形を利用し南側の低い箇所に北側を削平し盛土した形跡がみられた。平面規模は南北軸長560cm、東西軸長570cm、東壁長480cm、西壁長480cm、北壁長440cm、南壁長490cm、平面形態は隅丸台形を呈する。南北軸方向は、N-3°-E（磁北）でほぼ北を指す。床面は全体が堅緻でP7の周辺が低いもののほぼ平坦である。ピットは13個が検出され、辺2mの方形に配されたP1～P4が主柱穴、径120cm・深さ30cmの北東角のP7は貯蔵穴と考えられる。カマドは北壁の中央に30～70cm大の鉄平石をふんだんに使用して構築されている。支脚石は2本みられ壠の二つ掛けが考えられる。

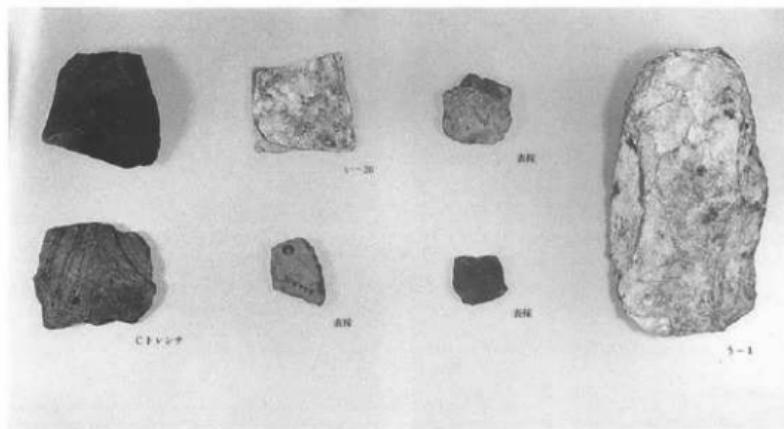


第1号住居址出土遺物実測図

遺物はカマド内とその周辺から多く出土し、須恵器長頸壷・壺、土師器甕・壺、砥石、刀子、石鏃がある。土師器甕は「コ」の字状口縁の甕と口クロ整形の甕がある。土師器壺は「才」・「物」・「主」・「丸」の墨書き器が4点みられる。平安時代（9世紀末葉）に比定されよう。



兵士山遺跡グリット・トレーナー出土遺物、表採土器実測図及び拓影図



兵士山遺跡グリット・トレーナー出土遺物、表採土器



兵士山遺跡 第1号住居址



第1号住居址カマド



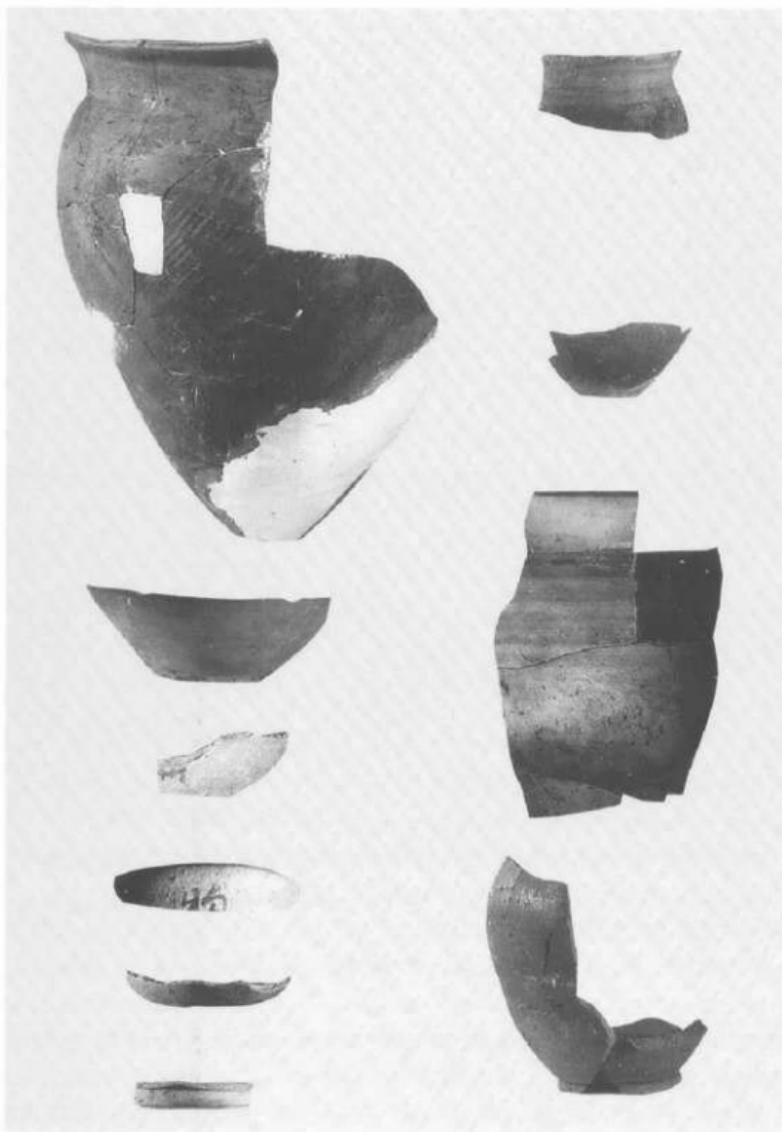
第1号住居址カマド掘り方



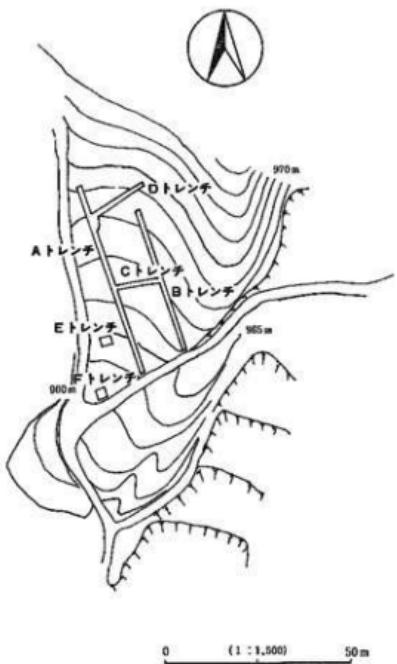
兵士山遺跡 遠景



兵士山遺跡 近景



第1号住居址出土遺物

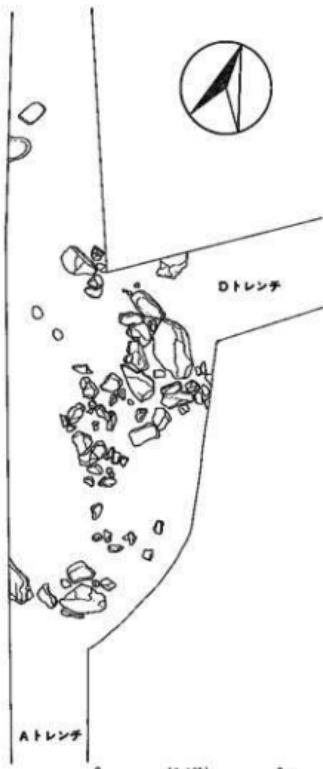


五斗代日遺跡地形及び  
発掘区設定図

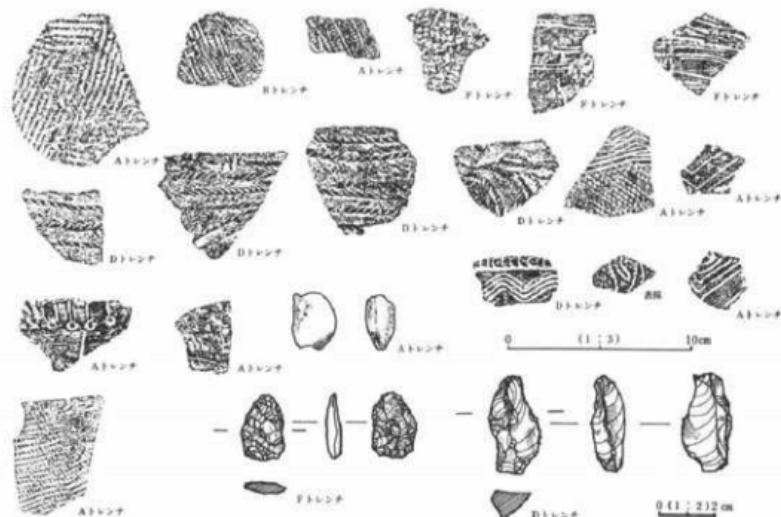
五斗代日遺跡は、現林道が開発工事のため  
拡幅されるおそれが生じたため、地形的にみ

て遺跡の埋蔵されている可能性の高い地点の試掘調査を実施した際に確認された新発見の遺跡である。香坂川に注ぐ小河川の左岸に形成された幅50m、長さ100m足らずの小台地上にある。

台地の先端はすでに基盤となるローム層が露呈していたため、台地の基部寄りに幅1mのトレンチを4本設定した。Bトレンチからは表土下20~30cmで須恵器片が出土したため、遺構の破壊を避けるため詳細なプラン確認は本調査にゆすることにした。A・Dトレンチの交差する地点から黒色緻密な安山岩を主とする礫群がみられたため、付近を若干拡張した。その結果、礫群が一部弧を描く気配がみられ、また、多量の縄文土器・石器等が出土したためそれ以上の掘り下げと拡張は中止した。出土した土器と石器及び未完成の石器・剝片・碎片から、本遺跡が縄文時代前期前葉～前期後半の石器製作址の可能性が大きいことが判明した。



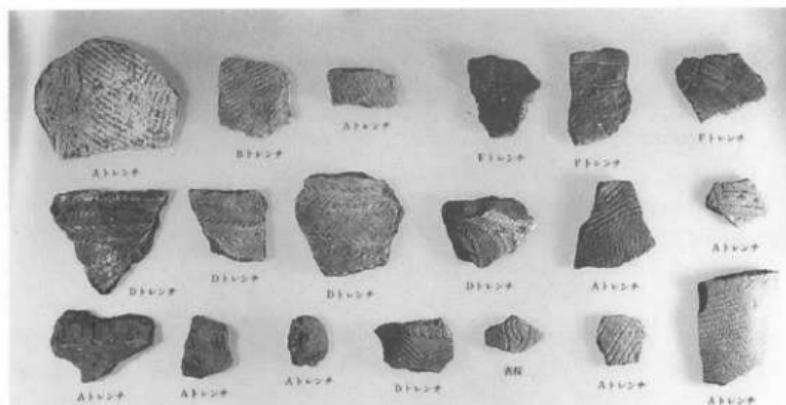
五斗代日遺跡礫群実測図



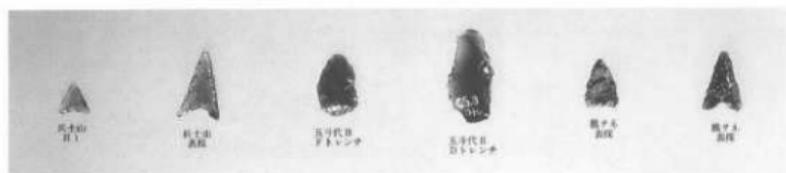
五斗代日遺跡トレンチ出土遺物、表探遺物実測図及び拓影図



五斗代日遺跡 簡群



五斗代日遺跡トレンチ出土遺物、表探遺物



兵士山遺跡・五斗代日遺跡・鶴ヶ尾遺跡出土遺物



兵士山遺跡・五斗代日遺跡発掘調査団

## 野馬窪遺跡

所 在 地 佐久市大字猿久保

字野馬窪 224-8

調査委託者 学校法人信州学園 佐久幼稚園

開発事業 塩田増築

調査期間 昭和56年6月11日～27日

調査面積 1,074m<sup>2</sup>

調査担当者 林 幸彦



### 経過と立地

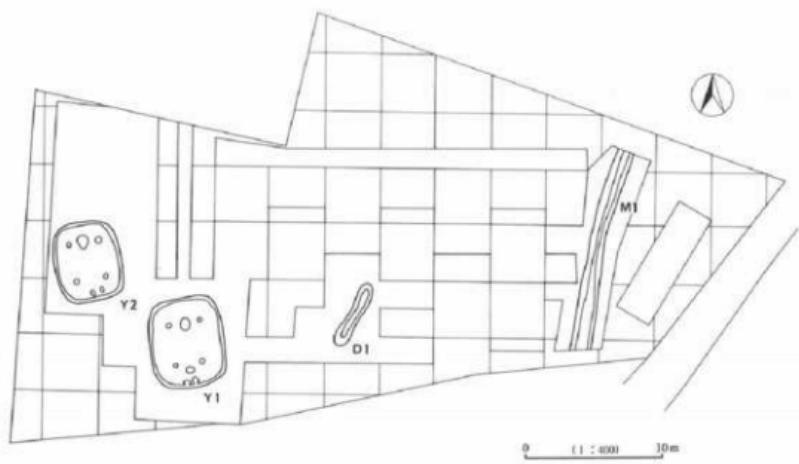
野馬窪遺跡群は佐久市のほぼ中央部、佐久市大字猿久保地籍に所在する。浅間山に源を発する湯川が西方に進路を変える河岸段丘上に位置し、東側には田切りが南北にのびる。本遺跡群の北側には隣接して蛇塚B遺跡群、蛇塚A遺跡群が存在し、湯川を挟んで北側に上の城遺跡群、岩村田遺跡群、一本柳遺跡群が展開している。標高は697m付近を測る。

### 調査概要

弥生時代後期の住居址2軒、土坑1基、溝状遺構1基が検出された。地形は南方と東方に向け緩く傾斜している。耕作土は浅く20～30cmで遺構確認面の火山灰土(P1)に達する。

Y1号住居址は南北の長軸長610cm、東西の短軸長530cm、東壁長522cm、西壁長480cm、北壁長412cm、南壁長404cmを測り隅丸長方形を呈する。長軸の方向はN-7°-Wを指す。覆土は二層からなり、P3・P4付近に擾乱があるものの総じて自然堆積である。床面は堅緻でほぼ平坦である。壁残高は18.5～29.5cmを測る。ピットは7個検出され、P1～P4の主柱穴は長辺280cm、短辺200cmの長方形角に整然と配され、平面形態は短辺15cm、長辺20～30cmの橢円形を呈する。P3・P4は南壁に、P1は東壁にP2は西壁に向けて10°～18°の角度で傾斜している。南壁直下のP6・P7および南に傾斜するP5は入り口施設に関するピットと思われる。炉址はP1・P2の主柱穴間に中央にあり、南北45cm、東西40cmの橢円形を呈し、大小5個の安山岩を北に開く「コ」の字状に配置した石囲い炉である。炉を中心とした不整台形状の範囲は、周囲より高く掘り残されており床面から5cmほど高くなっている。炉址の西側と北側に小ピットがある。

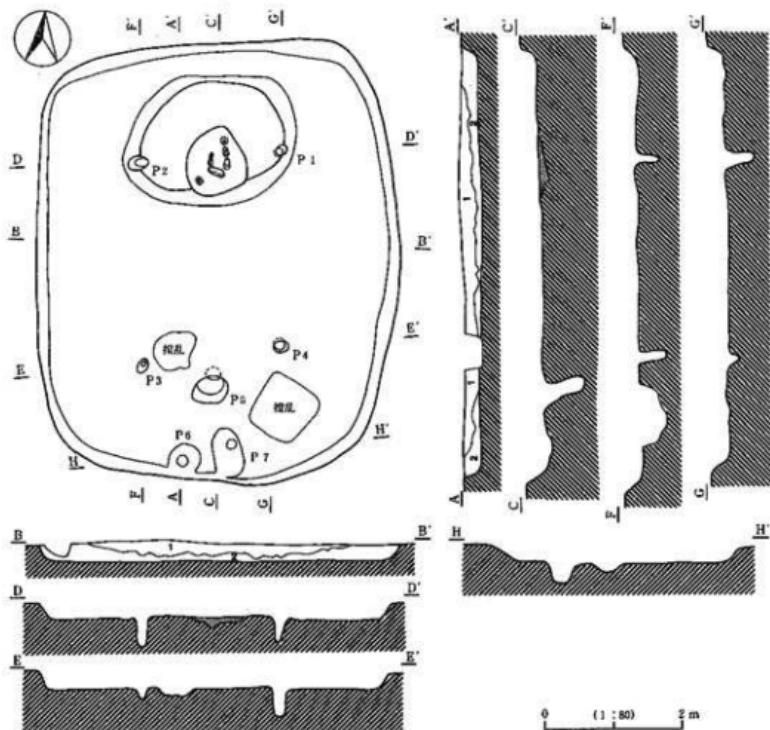
弥生時代後期前半吉田式の土器を主とする遺物は303点を数える。器種には甌、壺、甕、鉢がある。住居址中央部と南壁際中央に比較的集中し、覆土2層および床面上から多く出土している。



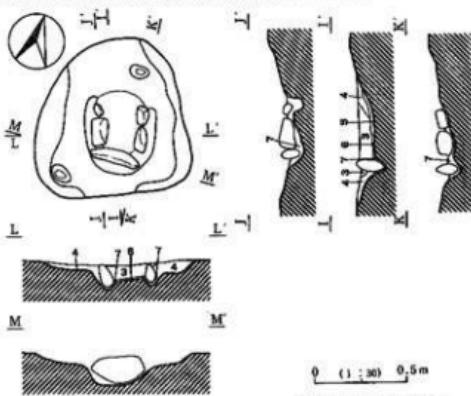
野馬塚遺跡全体図



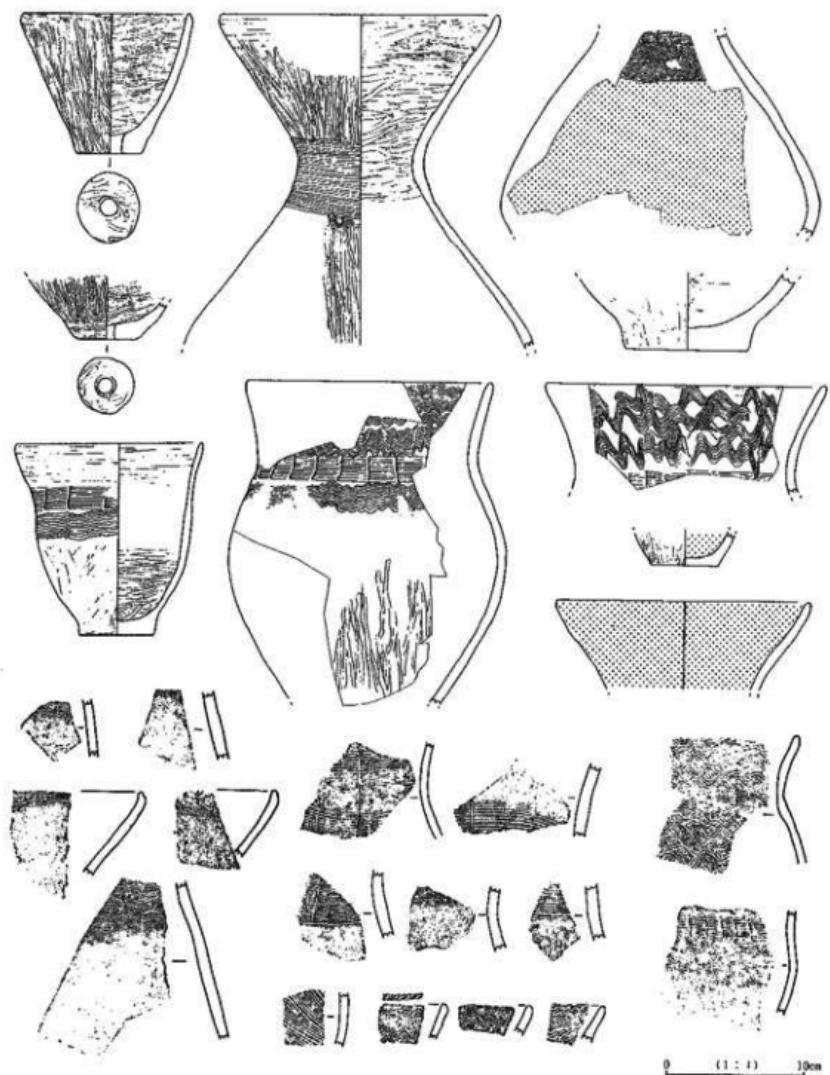
野馬塚遺跡 全景



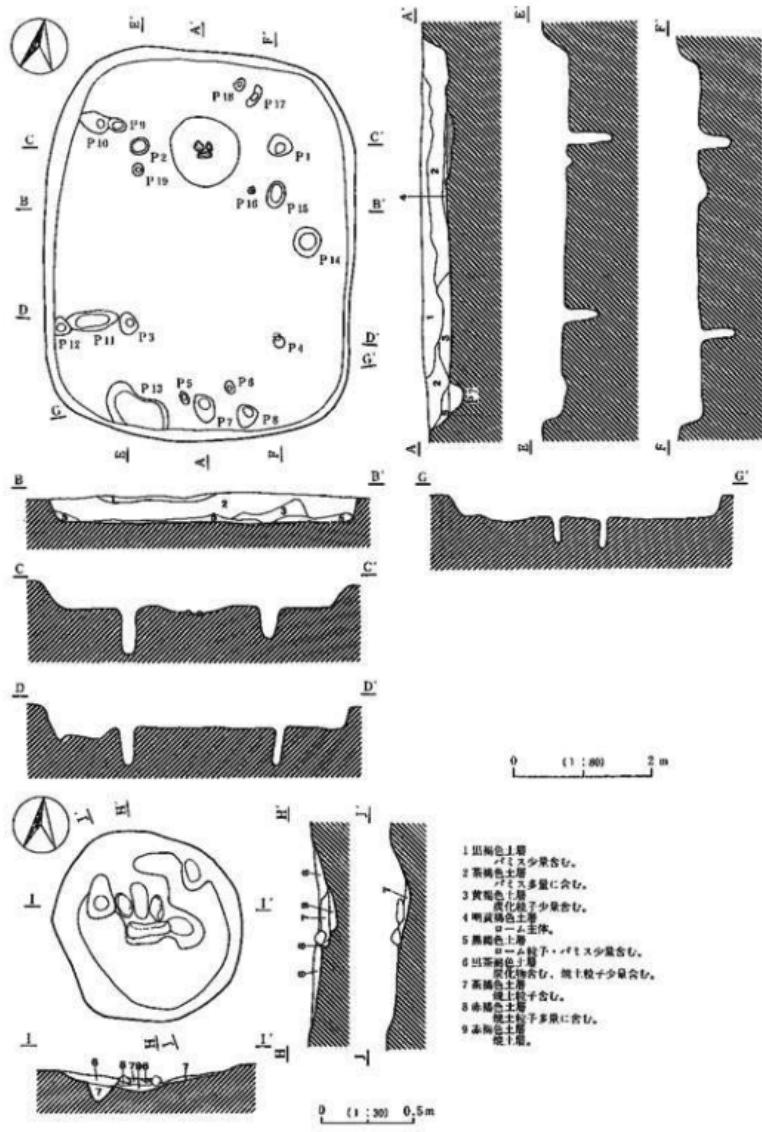
- 1 黒色土層  
 2 灰褐色土層 5 cm大の鉄石を含む。  
 3 黑褐色土層  
 腐化粒子少含む。  
 4 茶褐色土層  
 鉄石少含む。  
 5 赤褐色土層  
 鉄石無。  
 6 黑褐色土層  
 鉄石無。  
 7 茶褐色土層  
 鉄石少含む。



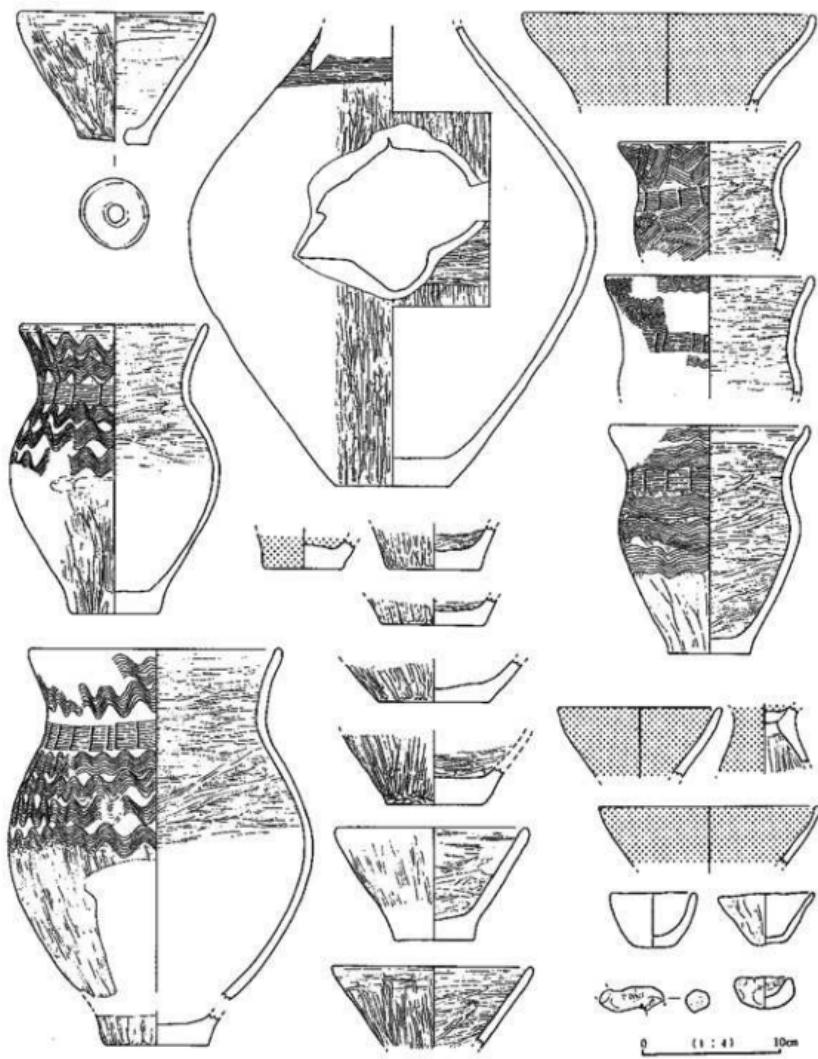
第1号住居址実測図



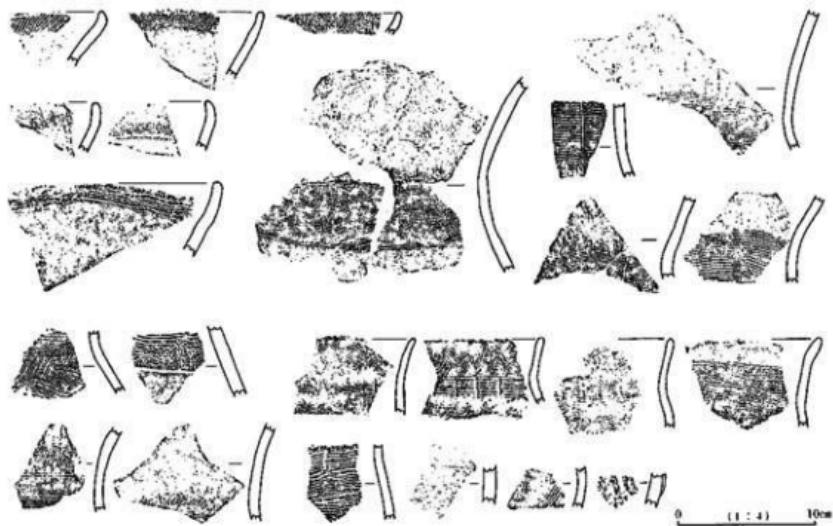
第1号住居址出土土器实测图



第2号住居址実測図



第2号住居址出土土器素描图



第2号住居址出土土器拓影図

Y2号住居址は南北の長軸長554cm、東西の短軸長448cm、東壁長460cm、西壁長456cm、北壁長330cm、南壁長346cmを測り、隅丸長方形を呈する。長軸の方向はN-10°-Wを指す。

覆土は五層からなり縦じて自然堆積であるが、3層が不自然な堆積である。床面は堅緻でほぼ平坦である。壁残高は26~39cmを測る。

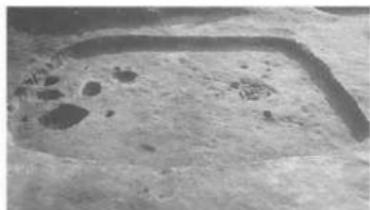
ピットは19個検出された。P1~P4の主柱穴は長辺280cm、短辺200cmの長方形角に整然と配され、平面形態は径15~30cmのほぼ円形を呈する。P4は南東壁に向けて10°の角度で傾斜している。南壁直下のP7・P8およびP5・P6は入り口施設に隣するピットと思われる。また、西壁寄りのP9~P11は主柱穴P2・P3とともに住居空間の間仕切りの存在が考えられる。

炉址はP1・P2の主柱穴間の中央にあり、径102cmの円形を呈し、大小3個の安山岩を北に開く「コ」の字状に配置した石画い炉である。炉底面から4cmの厚さで焼土がみられた。炉址底面の東西に径20cmの小ピットが存在する。

遺物は出土位置を記録したもので562点を数える。主体は弥生時代後期前半吉田式の土器で器種には甌、壺、甕、鉢、高环、手捏がある。また、土製の勾玉と磨製石鏃や不明製品も出土している。住居址東壁寄りと南西壁際が希薄なもののはぼ全体から出土している。特に炉址の西側に濃い分布がみられた。垂直分布では、覆土2層・3層および床面上から多く出土している。



第1号住居址（南方より）



第1号住居址（東方より）



第1号住居址遺物出土状況



第1号住居址炉址



第1号住居址炉址



第2号住居址（南方より）



第2号住居址（北方より）



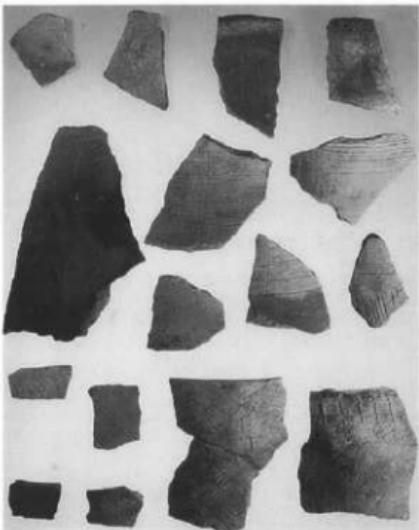
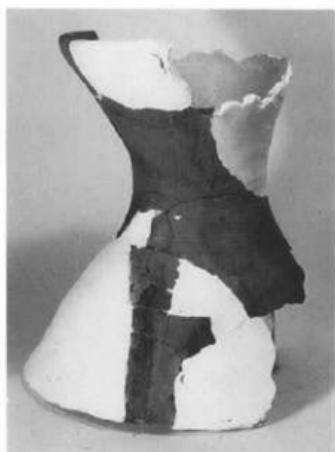
第2号住居址遺物出土状況



第2号住居址炉址



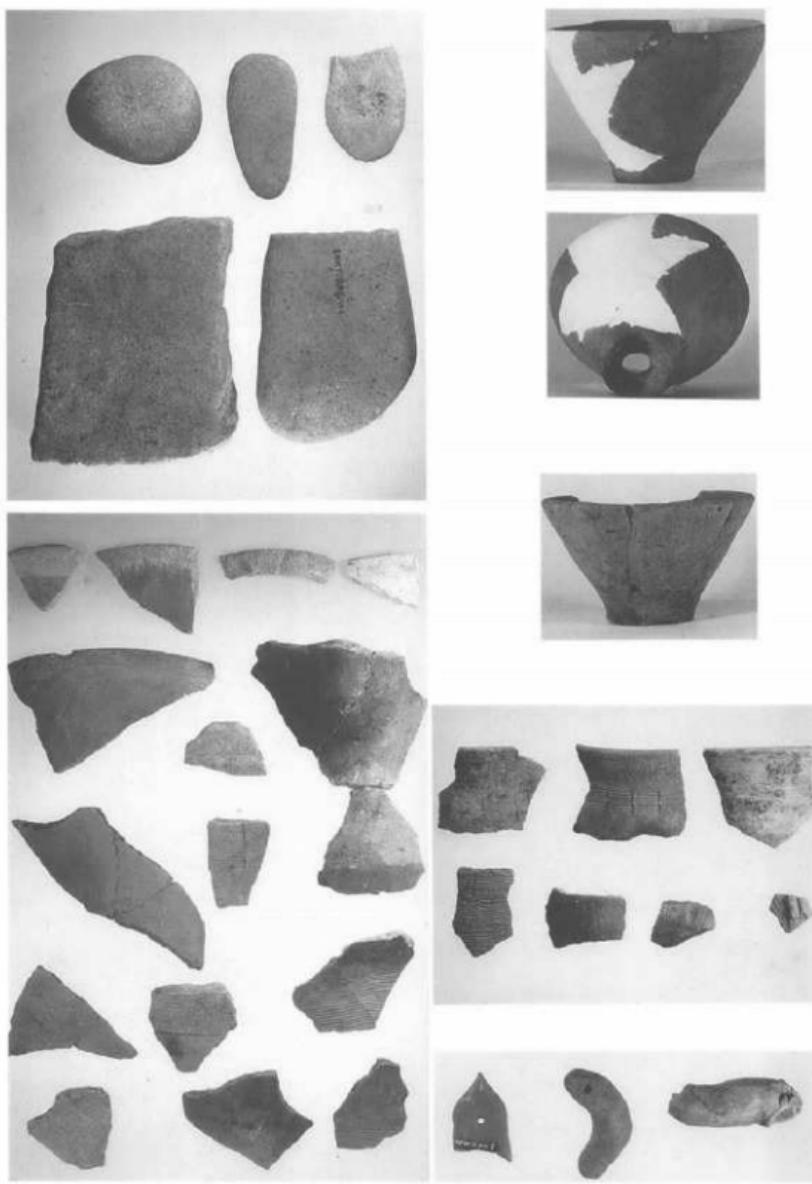
第2号住居址炉址



第1号住居址出土土器



第2号住居址出土土器



第1·2号住居址出土遺物



第1号溝状遺構



発掘調査スナップ



発掘調査スナップ



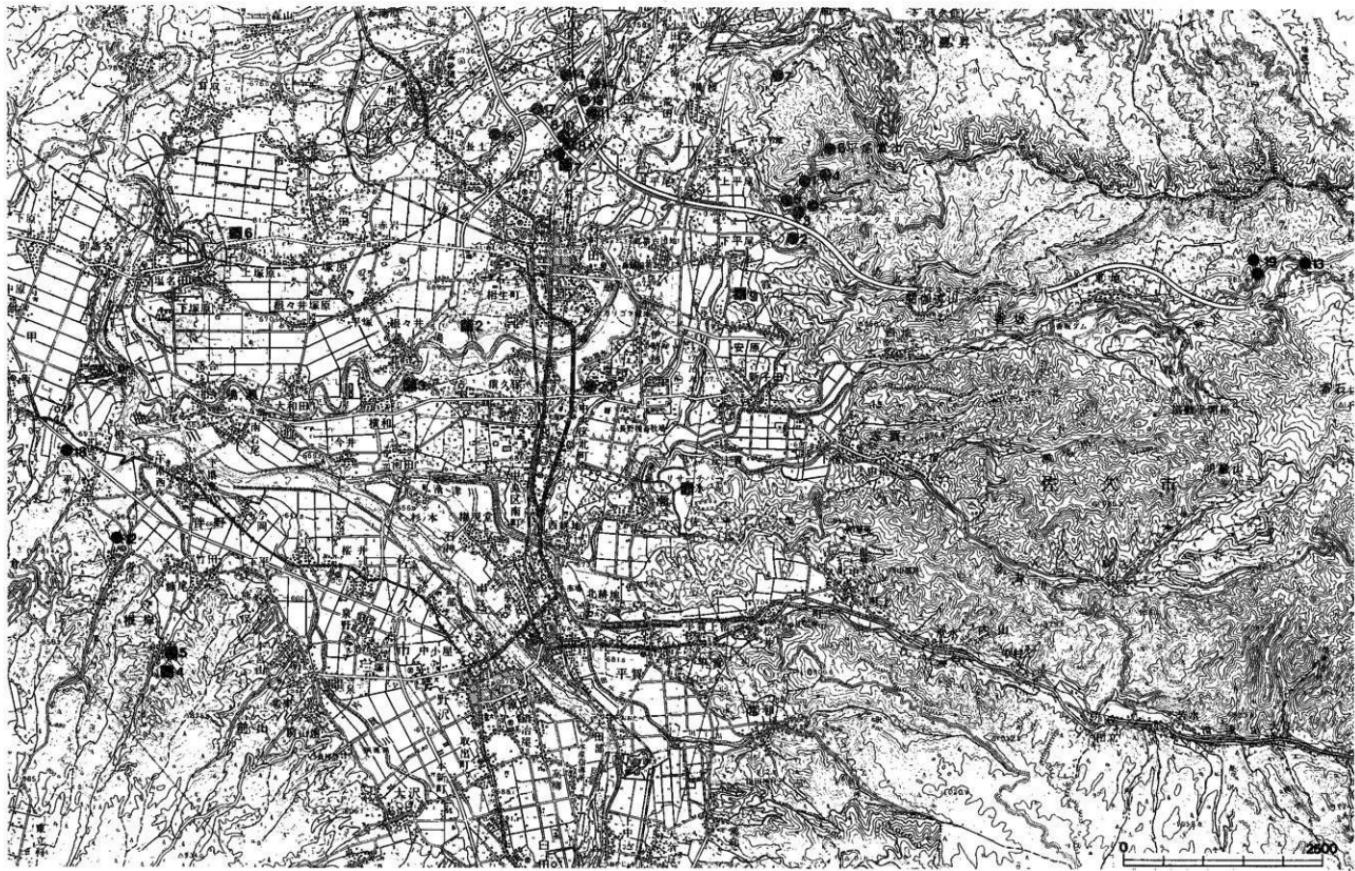
第1号土坑



発掘調査スナップ



発掘調査スナップ



平成5年度 考古遺跡位置図

佐久市埋蔵文化財 年報3

—平成5年度—

1993年3月31日

編集・発行 佐久市教育委員会

〒384-01 長野県佐久市大字中込3056

埋蔵文化財課

〒385 長野県佐久市大字志賀5953

TEL 0267-68-7321

印 刷 株式会社 樂<いちい>

